

書評 201911



高倉健、その愛。

小田 貴月 著

文藝春秋

孤高の映画俳優・高倉健が最後に愛した女性による手記。今も心に刻まれる言葉を振り返りながら、出逢い、人知れず 2 人で暮らした 17 年の日々、撮影秘話などを綴る。

2019.10./ 349p

978-4-16-391039-0

本体 ¥1,600+税



産経新聞 2019/11/02



9月1日〜母からのバトン〜

樹木 希林、内田 也哉子 著

ポプラ社

9 月 1 日は大勢の子どもが自殺してしまう日。そうつぶやいた母は何を伝えたかったのか？ 樹木希林が遺した言葉と、それを受けて内田也哉子が「不登校」や「命」について考え、様々な人と対話して紡ぎだした言葉をまとめる。

2019.8./ 284p

978-4-591-16360-3

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2019/11/02



スタン・ゲッツ〜音楽を生きる〜

ドナルド・L.マギン、村上 春樹 著

新潮社

どんな苦境でも、彼の音色は限りなく美しい。ボサノヴァなど新しいスタイルを常に取り入れ、第一線で半世紀近く活躍したテナー・サクソフォンの巨匠、スタン・ゲッツ。依存症、家庭内暴力など、熾烈な人生の業に迫る評伝。

2019.8./ 575p,12p

978-4-10-507131-8

本体 ¥3,200+税



産経新聞 2019/11/03



女系図でみる日本争乱史(新潮新書 831)

大塚 ひかり 著

新潮社

乙巳の変(大化の改新)、新羅親征、壬申の乱、関ヶ原合戦、戊辰戦争...みんな身内の争いだった。母親が誰かに注目した「女系図」を丹念に読み解き、日本史の謎を鮮やかに解き明かす。

2019.9./ 190p

978-4-10-610831-0

本体 ¥720+税



産経新聞 2019/11/03



最後の一文〜名作の終わり方の謎を解く〜

半沢 幹一 著

笠間書院

芥川龍之介「羅生門」、中島敦「山月記」、向田邦子「かわうそ」...。学校教科書に載っているものを中心に、主に近代以降の日本の短編小説を取り上げ、最後の一文を紹介。名作の終わり方の謎を解き、小説の読み方の一つを示す。

2019.9./ 228p

978-4-305-70897-7

本体 ¥1,400+税



産経新聞 2019/11/03

- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会には弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- 表示価格は 2019 年 12 月時点での税抜価格です。



古典つまみ読み～古文の中の自由人たち～(平凡社新書 920)

武田 博幸 著

平凡社

人間はなぜ、かくも不器用で愛おしいのか。信仰に生きた尼、自ら滅びゆく道を選んだ侍、気ままな生活を楽しむ貴族など、愛すべき登場人物たちに光を当て、珠玉の解説により古文の世界を味わい尽くす。『道標』連載を書籍化。

2019:8./ 286p

978-4-582-85920-1

本体 ¥880+税



産経新聞 2019/11/03



中国人民解放軍 2050年の野望～米軍打倒を目指す 200万人の「私兵」～(ワニブックス PLUS 新書 277)

矢板 明夫 著

ワニブックス

200万の兵力を有する人民解放軍は、香港・台湾を制圧し、2050年にアメリカを凌ぐ軍隊になろうとしている。中国共産党の「私兵」という、世界でも異質の軍隊はどういう組織なのか。その知られざる真実を解き明かす。

2019:10./ 221p

978-4-8470-6159-2

本体 ¥900+税



産経新聞 2019/11/03



教育無償化は国難突破の万能薬

下地 幹郎 著

産経新聞出版

幼保から大学まで。国民が望む憲法改正は、教育の完全無償化だ！子育て負担が減って出生率がアップする、家計の可処分所得が増えて経済が活性化するなど、教育の無償化が、この国を救う万能薬であることを明らかにする。

2019:10./ 195p

978-4-86306-137-8

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2019/11/03



このままじゃ学校にいけない

ベン・ブラッシャーズ、エリザベス・バークランド、福本 友美子 著

犀の工房

コウモリなら学校にいかなくてもいいし、チーターならだれよりもつよい。カメレオンならきづかれない。“わたし”ではない、何かほかのものになりたいエディはママに「あした学校にいきたくないかもしれないの」というと...

2019:9./ 1冊(ページ付なし)

978-4-9910063-2-6

本体 ¥1,600+税



産経新聞 2019/11/03



独裁者のブーツ～イラストは抵抗する～

ヨゼフ・チャペック、増田 幸弘、増田 集 著

共和国/editorial republica

自由と民主主義のために反ナチスのイラストを描きつづけ、強制収容所に消えたヨゼフ・チャペック。当時の新聞紙に掲載された彼が描いた「反ファシズム」をテーマにした1コマ漫画や風刺画を集成し、その生涯を辿る。

2019:9./ 181p

978-4-907986-63-6

本体 ¥2,500+税



産経新聞 2019/11/03、朝日新聞 2019/11/30



昭和も遠くなりけり

矢野 誠一 著

白水社

「小沢昭一さんの形見」「飢餓世代」「廓ばなしの名人たち」...。昭和の話ならお手のものの著者が、50年続く「東京やなぎ句会」の句友たちの動向を中心に、思い出の人間模様の数々を生きたきと描く。

2019:8./ 244p

978-4-560-09717-5

本体 ¥2,500+税



産経新聞 2019/11/03、読売新聞 2019/11/10



天才たちの日課<女性編> 自由な彼女たちの必ずしも自由でない日常

メイソン・カリー 著

フィルムアート社

草間彌生、フリーダ・カーロ、ヴァージニア・ウルフ、ミランダ・ジュライ…。創作の妨げに直面する毎日を乗り越えてきた天才女性 143 人のフラストレーションや妥協、後悔、覚悟、そして希望に満ちた日常を紹介する。

2019:9./ 405p,23p

978-4-8459-1637-5

本体 ¥1,800+税



産経新聞 2019/11/09、日本経済新聞 2019/11/30



吉田都 永遠のプリンシパル

吉田 都 著

河出書房新社

日本が生んだ世界のプリマ、吉田都の輝かしいキャリアを振り返るメモリアルブック。35 年分の秘蔵フォト、愛するレパートリー 15 作品に込めた思い、舞台裏、寄稿等を収録する。見返しにも写真あり。

2019:8./ 127p

978-4-309-29042-3

本体 ¥3,150+税



産経新聞 2019/11/10



頼山陽と戦争国家

見延 典子 著

南々社

幕末のベストセラー「日本外史」は、戦争の道を進む近代日本を背景に読まれ方が変化し、頼山陽自身の評価にも影響を与えた。山陽が史書に託した真意とは？ 山陽没後の評価の変遷をたどる。

2019:10./ 279p

978-4-86489-102-8

本体 ¥2,700+税



産経新聞 2019/11/10



この世の景色

早坂 暁 著

みずき書林

反骨をユーモアで包み、あたたかい眼差しと飄々とした足どりで歩き続けた早坂暁。原爆で死んだ妹のこと、親友・渥美清のこと、遍路道と母親のこと…。名脚本家が遺した珠玉のエッセイを収録する。

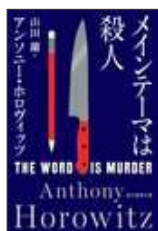
2019:9./ 246p

978-4-909710-10-9

本体 ¥1,800+税



産経新聞 2019/11/10



メインテーマは殺人(創元推理文庫 M ホ 15-3)

アンソニー・ホロヴィッツ、山田 蘭 著

東京創元社

自らの葬儀の手配をしたまさにその日、資産家の老婦人は絞殺された。彼女は、自分が殺されると知っていたのか？ 作家のわたし、ホロヴィッツは元刑事ホーソーンから、この奇妙な事件を捜査する自分を本にしないかと誘われ…。

2019:9./ 487p

978-4-488-26509-0

本体 ¥1,100+税



産経新聞 2019/11/10、読売新聞 2019/11/17



人生が変わるすごい「地理」～<学問>の力で働き方と生き方の<答え>が出る！～

角田 陽一郎 著

KADOKAWA

海も、山も、川も、都市も、行き交う人々も、目に映るものすべてが「人生の教材」になる！ 地理から学んだ情報を軸に、それをさまざまに応用することによって、知らないことを推定し、次の行動に投影する思考法を紹介する。

2019:8./ 262p

978-4-04-602175-5

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2019/11/17



湘南夫人

石原 慎太郎 著

講談社

湘南に大邸宅を構え、巨大企業グループを擁する北原家。急逝した三代目の若き未亡人・紀子は、二代目の非嫡出子・志郎と結ばれるが、やがて複雑に入り組んだ関係に変化の兆しがあらわれ…。『群像』連載を単行本化。

産経新聞 2019/11/17

2019.9./ 178p

978-4-06-516674-1

本体 ¥1,600+税



古川健<1> 治天ノ君/追憶のアリラン(ハヤカワ演劇文庫 48)

古川 健 著

早川書房

歴史劇の名手・古川健の戯曲集。1 は、激動の明治と昭和の間に埋もれ、人々から忘れられた大正天皇の真実を描いた「治天ノ君」ほか、全 2 篇を収録。各作品の参考文献、語句解説、関連年表等も掲載。

産経新聞 2019/11/17

2019.10./ 314p

978-4-15-140048-3

本体 ¥1,200+税



クモの奇妙な世界～その姿・行動・能力のすべて～

馬場 友希 著

家の光協会

メスとオスのサイズ差はゾウと人ほど違う？ いままでアリだと思って見ていたものはクモだったのかも？ クモの面白い生態や進化の不思議、人の暮らしとの密接な関わりなどを気鋭のクモ研究家が紹介する。観察の手引きも掲載。

産経新聞 2019/11/17

2019.8./ 351p

978-4-259-54769-1

本体 ¥1,800+税



銀河の果ての落とし穴

エトガル・ケレット、広岡 杏子 著

河出書房新社

世界 40 か国以上で愛読される語りの名手の最新短篇集。ゲームのヴァーチャル空間と戦争の現実が混在する近未来のアメリカの若者を描いた「フリザードン」、旧約聖書のヤコブの梯子をモチーフにした「はしご」などを収録する。

産経新聞 2019/11/17

2019.9./ 229p

978-4-309-20780-3

本体 ¥2,400+税



楽しくなければ仕事じゃない～「今やっていること」がどんどん「好きで得意」になる働き方の教科書～

干場 弓子 著

東洋経済新報社

キャリアプラン・好きを仕事にする・夢をかなえる…。働く人を惑わす 10 の言葉から自由になるには？ 全国 5000 の書店と直取引をする出版界で大注目の経営者が、人生の楽しさを最大化する働き方、生き方、動き方を伝える。

産経新聞 2019/11/17

2019.10./ 278p

978-4-492-04657-9

本体 ¥1,400+税



台湾総統選挙

小笠原 欣幸 著

晃洋書房

台湾の方向性を決め、さらには中国・アメリカにも影響を及ぼす台湾総統選挙。過去 6 回の総統選挙のプロセスと結果を分析し、それが映し出す台湾政治の変動を整理。台湾の民主主義がたどってきた路を明らかにする。

産経新聞 2019/11/17

2019.11./ 12p,344p

978-4-7710-3271-2

本体 ¥2,800+税





事実はなぜ人の意見を変えられないのか～説得力と影響力の科学～

ターリ・シャーロット、上原 直子 著

白揚社

人はいかにして他人に影響を与え、他人から影響を受けているのか。そのとき、脳の内部では何が起きているのか。認知神経科学者が、興味深い実験やユーモアに富んだ逸話を交えて「影響力」の秘密を紹介する。

2019:8./ 285p

978-4-8269-0213-7

本体 ¥2,500+税



産経新聞 2019/11/17



NHK 大河ドラマ「いだてん」完全シナリオ集<第1部>

宮藤 官九郎 著

文藝春秋

日本マラソンの父・金栗四三と同時代の古今亭志ん生の生涯を織り交ぜ、明治から昭和までのスポーツ史を描く。NHK 大河ドラマ「いだてん」第 1?24 回のシナリオ(決定稿)を収録。中村勘九郎×綾瀬はるかとの対談なども掲載。

2019:9./ 575p

978-4-16-391094-9

本体 ¥2,200+税



産経新聞 2019/11/23



日本の貧困女子～衰退途上にあるこの国のリアル～(SB新書 494)

中村 淳彦 著

SBクリエイティブ

家族、地域、制度の3つの縁をなくし、最貧困女子に落ちていく女性たち。地方消滅が叫ばれ、都会以上に貧困化が進む地方において、彼女たちが孤立に陥ったときどんな現実が待っているのか。地方の貧困の現実を描く。

2019:11./ 271p

978-4-8156-0123-2

本体 ¥870+税



産経新聞 2019/11/23



どうしても生きてる

朝井 リョウ 著

幻冬舎

死んでしまいたい、と思うとき、そこに明確な理由はない。心は答え合わせなどできない。「健やかな論理」ほか全 6 編を収めた朝井リョウの短編集。現代の声なき声を掬いとり、ほのかな光を灯す。『小説幻冬』掲載を単行本化。

2019:10./ 323p

978-4-344-03516-4

本体 ¥1,600+税



産経新聞 2019/11/24



SMART サブスクリプション～第3世代サブスクリプションがB to Bに革命を起こす!～

宮崎 琢磨、藤田 健治、小澤 秀治 著

東洋経済新報社

話題性に目が奪われがちな表層的なサブスクリプションの例や、ビジネス革命としてのサブスクリプションの本質、さらには進化型のサブスクリプションの実態を解明。日本の製造業の可能性に迫る。

2019:10./ 291p

978-4-492-96169-8

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2019/11/24



ヴェノナ～解読されたソ連の暗号とスパイ活動～

ジョン・アール・ヘインズ、ハーヴェイ・クレア、中西 輝政、山添 博史、佐々木 太郎、金 自成 著
扶桑社

日本への原爆投下をソ連は事前に?んでいた! 第二次世界大戦中、アメリカ陸軍によって行われたソ連暗号の傍受・解読作業「ヴェノナ作戦」。その成果をまとめた「ヴェノナ」文書を、さまざまな関係史料を渉猟し、解釈する。

2019.9./ 501p

978-4-594-08307-6

本体 ¥2,500+税



産経新聞 2019/11/24



お金本

左右社編集部 編

左右社

貯金は底をついても才能は枯渇しない! 小泉八雲、二葉亭四迷から村上春樹、北野武まで、文豪を中心とする作家たちのお金にまつわるエッセイ、日記、手紙などを集めたアンソロジー。井伏鱒二、中島らもらのお金 Q&A も収録。

2019.10./ 334p

978-4-86528-251-1

本体 ¥2,300+税



産経新聞 2019/11/24、東京・中日新聞 2019/11/24、読売新聞 2019/11/24



こわす(こうじのえほん)

サリー・サットン 著

福音館書店

ギシッ、グギン、バッポーン! 高い建物のでっぺんを目がけて鉄球を当て、油圧ショベルのギザギザの歯でコンクリートを崩す...。解体工事の現場で、ブルドーザーなどを使って、建物を解体していく様子を描く。

2019.3./ 24p

978-4-8340-8378-1

本体 ¥1,300+税



産経新聞 2019/11/29



世界香水ガイド～「匂いの帝王」が五つ星で評価する～<3> 1208

ルカ・トゥリン、タニア・サンチェス、秋谷 温美 著

原書房

世界の名ブランドからニッチブランド、独立系まで、香水 1208 点を 5 段階評価する。嗅覚研究者で香水収集家のルカ・トゥリンらによるウィットと愛情に富んだランキングガイドブック。ブランド別、評価別の索引付き。

2019.10./ 350p

978-4-562-05692-7

本体 ¥2,400+税



産経新聞 2019/11/30



追いついた近代消えた近代～戦後日本の自己像と教育～

荻谷 剛彦 著

岩波書店

「追いつき型近代」を達成した日本は、社会の変化にどう対応しようとしてきたのか。教育政策を過去と未来をつなぐ結節点ととらえ、さまざまな政策文書や知識人・研究者の言説をひもとき、現在の問題群の原点を抉り出す。

2019.9./ 37p,369p,6p

978-4-00-061362-0

本体 ¥3,300+税



朝日新聞 2019/11/02



ヴァルター・ベンヤミン～闇を歩く批評～(岩波新書 新赤版 1797)

柿木 伸之 著

岩波書店

言語、芸術、歴史を根底から捉え直しながら、時代の闇のただなかに、何者にも支配されない生の余地を切り開こうとした思想家ベンヤミン。瓦礫を?き分けて、捨て去られたものを拾い続けた彼の思考を読み解く。

2019.9./ 6p,262p

978-4-00-431797-5

本体 ¥860+税



朝日新聞 2019/11/02



CONFUSED!~THE OPTIMISTIC CHAOS IN A TOWN~(BEAM CO-MIX)

福富 優樹、サヌキ ナオヤ 著
KADOKAWA

気鋭の音楽家とイラストレーターが贈る、新感覚群像劇!郵便物を盗む「善意の泥棒」、打ち切りに直面したラジオ DJ の奇策…。小さな違和感に満ちた街・グリーンバークを舞台に、静かに混乱した人間模様が交錯する。

2019/10./ 203p

978-4-04-735766-2

本体 ¥1,000+税



朝日新聞 2019/11/02



教養としてのヤクザ(小学館新書 356)

溝口 敦、鈴木 智彦 著

小学館

反社とは何か、暴力団とは何か、ヤクザとは何か。彼らと社会とのさまざまな接点を通じて「教養としてのヤクザ」を学ぶ。暴力団取材に精通した 2 大ヤクザライターによる、“反社”会学入門。

2019/10./ 222p

978-4-09-825356-2

本体 ¥800+税



朝日新聞 2019/11/02



破戒 改版(新潮文庫)

島崎 藤村 著

新潮社

朝日新聞 2019/11/02

2005/7./ 500p

978-4-10-105507-7

本体 ¥710+税



キリスト教と死~最後の審判から無名戦士の墓まで~(中公新書 2561)

指 昭博 著

中央公論新社

キリスト教の世界観を紹介し、イギリス社会に大きな影響を与えたカトリックとプロテスタントの違いを指摘。キリスト教の死生観が生み出してきた墓やモニュメント、文学や映画、芸術作品など「死の文化」の豊かな世界をめぐる。

2019/9./ 8p,264p

978-4-12-102561-6

本体 ¥860+税



朝日新聞 2019/11/02



七人の暗殺者(ハヤカワ文庫 NV 1459)

エイダン・トルーヘン、三角 和代 著

早川書房

ドラッグ・ディーラーのジャック・プライスの下に階に住む老女が殺された。自分の縄張り、誰がそんな真似を? 調べ始めたプライスだが、それをころよく思わない何者かによって、凄腕暗殺集団が差し向けられて…。

2019/10./ 383p

978-4-15-041459-7

本体 ¥1,040+税



朝日新聞 2019/11/02



この国の不寛容の果てに~相模原事件と私たちの時代~

雨宮 処凛、神戸 金史 著

大月書店

生産性、自己責任、一人で死ぬ…。不寛容な言葉に溢れたこの国で、「障害者は不幸しか作らない」という線引きによって、男は 19 人の障害者を殺した。命をめぐる対話集。テキストデータの提供サービス付き。

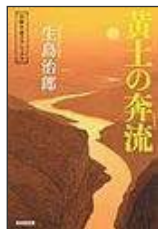
2019/9./ 271p

978-4-272-33097-3

本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/11/02



黄土の奔流～冒険小説クラシックス～(光文社文庫 い1-8)

生島 治郎 著

光文社

中国に渡り 15 年。無一文となった紅真吾は、揚子江から重慶まで溯り豚毛を買い集めるという儲け話に誘われる。だが流域の治安は劣悪で、命の保証はない。一攫千金を狙う真吾は、危険も顧みず出立する! 手に汗握る冒険小説。

2019:10./ 432p

978-4-334-77922-1

本体 ¥840+税



朝日新聞 2019/11/02



読書会入門～人が本で交わる場所～(幻冬舎新書 や-18-1)

山本 多津也 著

幻冬舎

新しい知識、新しい自分、新しい出会いが見つかる! 本の感想を複数人で語り合う「読書会」。日本最大規模の読書会主宰者がその効果を説明し、参加の仕方、会の開き方からトラブル対処法までを紹介。読書会の醍醐味を伝える。

2019:9./ 182p

978-4-344-98573-5

本体 ¥780+税



朝日新聞 2019/11/02



火喰鳥～羽州ぼろ鳶組～(祥伝社文庫 い27-1)

今村 翔吾 著

祥伝社

かつて、江戸随一と呼ばれた武家火消、松永源吾。別名「火喰鳥」。しかし 5 年前の火事が原因で、今は貧乏浪人暮らし。そんな彼の元に出羽新庄藩から、突然仕官の誘いが...。「ぼろ鳶」と蔑まれる火消集団の一発逆転ストーリー。

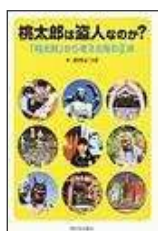
2017:3./ 444p

978-4-396-34298-2

本体 ¥740+税



朝日新聞 2019/11/02



桃太郎は盗人なのか?～「桃太郎」から考える鬼の正体～

倉持 よつば 著

新日本出版社

桃太郎盗人説の真偽を確かめるべく、全国の桃太郎を読み比べ。江戸時代の文献にまで遡り、各時代の桃太郎像を炙り出す。第 22 回「図書館を使った調べる学習コンクール」文部科学大臣賞を受賞した小学 5 年生の作品を単行本化。

2019:9./ 143p

978-4-406-06389-0

本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2019/11/02



現地嫌いなフィールド言語学者、かく語りき。

吉岡 乾 著

創元社

パキスタンとインドの山奥で、話者人口の少ない 7 つの言語を調査するフィールド言語学者の著者。現地の過酷な生活環境に心折れそうになりつつも、独り調査を積み重ねてきた日々を、独自のユーモアを交えつつ淡々と綴る。

2019:9./ 302p

978-4-422-39003-1

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/11/02



ノーベル賞はこうして決まる～選考者が語る自然科学三賞の真実～

アーリング・ノルビ、千葉 喜久枝 著

創元社

独特の文化的背景、確固たる信念、そして予期せぬ幸運が科学に変革をもたらす。長年、ノーベル賞選考に携わったノルビ博士が、受賞者たちも知らない選考委員会の舞台裏を描いた、理系ノンフィクション。

2011:10./ 401p,22p

978-4-422-40020-4

本体 ¥2,400+税



朝日新聞 2019/11/02



ハーメルンの笛吹き男～伝説とその世界～(ちくま文庫)

阿部 謹也 著

筑摩書房

朝日新聞 2019/11/02

1988.12./ 315p,4p

978-4-480-02272-1

本体 ¥760+税



イノベーションはなぜ途絶えたか～科学立国日本の危機～(ちくま新書 1222)

山口 栄一 著

筑摩書房

日本のイノベーションが途絶えたのはなぜか。その制度的な要因を解明するとともに、科学的発見からイノベーションが生まれるプロセスを明らかにし、科学立国日本の再興に向けた実践的な打開策を提示する。

2016.12./ 228p,8p

978-4-480-06932-0

本体 ¥800+税



朝日新聞 2019/11/02



ノーベル賞の舞台裏(ちくま新書 1289)

共同通信ロンドン支局取材班 編

筑摩書房

ノーベル賞は、ノーベルが遺言した「人種・国籍を超えた人類への貢献」という理想とは裏腹に、国家や著名大学の名誉欲が交差し、政治利用も見え隠れする。多くの関係者の証言と資料から、ノーベル賞の舞台裏を明らかにする。

2017.11./ 291p

978-4-480-07103-3

本体 ¥900+税



朝日新聞 2019/11/02



ソーシャルワーカー～「身近」を革命する人たち～(ちくま新書 1433)

井手 英策、柏木 一恵、加藤 忠相、中島 康晴 著

筑摩書房

暮らしの「困りごと」と向き合い、人びとの権利を守る上で、何が問題となっているのか。そもそもソーシャルワークとは何か。ソーシャルワークの第一人者たちと研究者が結集し、「不安解消への処方箋」を提示する。

2019.9./ 231p

978-4-480-07247-4

本体 ¥820+税



朝日新聞 2019/11/02



屍人荘の殺人(創元推理文庫 M い 12-1)

今村 昌弘 著

東京創元社

神紅大学ミステリ愛好会の葉村譲と明智恭介は、曰くつきの映画研究部の夏合宿に加わるため、紫湛荘を訪ねた。その夜、想像しえない事態に遭遇し紫湛荘に立て籠もった彼らだが、翌日部員の1人が密室で死体となって発見され...

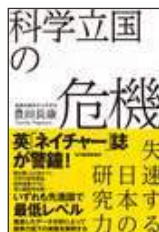
2019.9./ 381p

978-4-488-46611-4

本体 ¥740+税



朝日新聞 2019/11/02



科学立国の危機～失速する日本の研究力～

豊田 長康 著

東洋経済新報社

失速する日本の研究力。論文数(人口あたり)や研究者数(FTE)など、いずれも先進国で最低のレベル。そんな日本の競争力低下の実態を、徹底したデータ分析により解明し、科学技術立国再生の設計図を示す。

2019.2./ 536p

978-4-492-22389-5

本体 ¥2,600+税



朝日新聞 2019/11/02



科学者が消える～ノーベル賞が取れなくなる日本～

岩本 宣明 著

東洋経済新報社

なぜ科学立国は崩壊したのか？理工系博士の卵は半減。博士になっても職がない。基礎研究費割合は主要国下位…。気鋭のジャーナリストが科学力失速のリアルな現実とその要因を、データを示し警鐘を鳴らす。

2019:9./ 286p

978-4-492-22390-1

本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2019/11/02



MMT 現代貨幣理論入門

L.ランダル・レイ、島倉 原、鈴木 正徳 著

東洋経済新報社

MMT(現代貨幣理論)研究の第一人者による「バイブル」。マクロ会計の基礎から主権通貨のための現代貨幣理論までを専門用語を使わず解説する。MMTをいち早く日本に紹介した中野剛志と“反緊縮の旗手”松尾匡の解説付き。

2019:8./ 536p,15p

978-4-492-65488-0

本体 ¥3,400+税



朝日新聞 2019/11/02



くらべる・たのしいにたことば絵辞典

ニシワキ タダシ、山口 諤司 著

PHPエディターズ・グループ

「すっぽり」と「つつぱり」、「おほほ」と「とほほ」…。音の響きが似ている言葉を見開きに掲載。それぞれのイラストを、つながる 2 コマまんがとして楽しめる本。英語やローマ字表記で言葉の意味や読み方なども示す。

2019:9./ 263p

978-4-569-84383-4

本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/11/02



見知らぬ町で(双葉文庫 さすらいのキャンパー探偵 か-32-07 [3])

香納 諒一 著

双葉社

愛車のフォルクスワーゲン・タイプ 2 が故障し、田舎町で立ち往生した辰巳。修理を待つ間、骨休めを決めこむはずが、住民たちの愛憎劇に巻きこまれる。そして、ついには死体が発見され…。『小説推理』等掲載を文庫化。

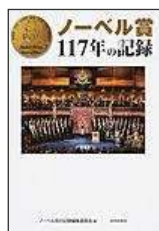
2019:10./ 333p

978-4-575-52268-6

本体 ¥670+税



朝日新聞 2019/11/02



ノーベル賞 117 年の記録

ノーベル賞の記録編集委員会 編

山川出版社

1901 年から 2017 年までのノーベル賞各部門の全受賞者 892 人、24 団体の業績を掲載。さらに、ノーベルの理念、選考機関、選考方法、各賞の詳解のほか、受賞時の世界がわかる「この年の出来事」も収録する。

2017:12./ 167p

978-4-634-15124-6

本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/11/02



幻想と怪奇傑作選

紀田 順一郎、荒俣 宏、牧原 勝志 編

紀田 順一郎、荒俣 宏 著

新紀元社

1973 年 4 月の創刊から 1974 年 10 月号の休刊まで、12 号を発行した雑誌『幻想と怪奇』の掲載作、評論、コラム、書評を厳選して復刻。幻の同人誌『THE HORROR』全 4 号も収録する。

2019:10./ 1 冊

978-4-7753-1760-0

本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2019/11/02



ヤバイ集中力～1日ブツ通しでアタマが冴えわたる神ライフハック 45～

鈴木 祐 著

SBクリエイティブ

脳科学や心理学、栄養学に基づく研究論文を使って、集中力アップのテクニックを紹介。心を動かすメカニズムや、そのメカニズムと集中力の増減との関係なども解き明かす。ライフハック一覧表付き。

2019:9./ 263p

978-4-7973-9996-7

本体 ¥1,400+税



朝日新聞 2019/11/02



世界の本屋さんめぐり(私のとっておき 47)

ナカムラ クニオ 著

産業編集センター

ベトナム、パプアニューギニア、ロシア、イスラエル…。2000年頃から巡った世界35カ国の本屋を、スケッチとともに紹介。各国の気になる1冊や本屋のトートバッグ、世界の図書館、世界の作家などのコラムも収録する。

2019:10./ 159p

978-4-86311-243-8

本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2019/11/02



流れのなかにひかりのかたまり

青木 野枝 著

左右社

重量のある素材から軽やかな彫刻を制作してきた青木野枝。青木自身のインタビューの他、つくって、置き、崩す、を繰り返す営みをドキュメントとして掲載する。鹿児島県霧島アートの森他で開催の展覧会公式図録。

2019:7./ 127p

978-4-86528-242-9

本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/11/02



マリアさま

いしい しんじ 著

リトル・モア

動かなくなったトビをふいと吐きすて、私は再び身構えました。ばさばさとトビたちがはばたく気配がして…。『犬のたましい』はじめ、全27篇を収録した3年ぶりの小説集。『朝日新聞』『新潮』ほか掲載を加筆し書籍化。

2019:9./ 257p

978-4-89815-510-3

本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2019/11/02



<災後>の記憶史～メディアにみる関東大震災・伊勢湾台風～

水出 幸輝 著

人文書院

「防災の日」が設定され、全国規模での想起の対象となった関東大震災と、ローカルな記憶にとどめられた伊勢湾台風。ふたつの運命を分けたものは何だったのか。メディア言説の分析から、災害をめぐる記憶と認識の変遷に迫る。

2019:10./ 388p

978-4-409-24126-4

本体 ¥4,500+税



朝日新聞 2019/11/02、産経新聞 2019/11/17、東京・中日新聞 2019/11/24



戦下の淡き光

マイケル・オndaatje、田栗 美奈子 著

作品社

1945年、両親は犯罪者かもしれない男達に僕らをゆだねて姿を消した。母の秘密を追い、政府機関の任務に就くナサニエル。母たちはどこで何をしていたのか。人生を賭して、彼は探す…。スリリングで美しい長編小説。

2019:9./ 294p

978-4-86182-770-9

本体 ¥2,600+税



朝日新聞 2019/11/02、日本経済新聞 2019/11/02



アメリカのニーチェ〜ある偶像をめぐる物語〜(叢書・ユニベルシタス 1102)

ジェニファー・ラトナー＝ローゼンハーゲン 著

法政大学出版局

ドイツの哲学者ニーチェ。神の死を宣告し、超人の到来を説いて狂気に倒れた彼は、アメリカ的な思想家エマソンの愛読者だった。ニーチェの哲学が、20世紀アメリカの文化やキリスト教などに及ぼしたインパクトを跡づける。

2019:10./

7p,491p,152,7p

978-4-588-01102-3

本体 ¥5,800+税



朝日新聞 2019/11/02、日本経済新聞 2019/11/23



平成の終焉〜退位と天皇・皇后〜(岩波新書 新赤版 1763)

原 武史 著

岩波書店

天皇制の新たなスタイルが確立された、平成という時代。日本中をくまなく訪ね歩き、自らの思いを国民に直接語りかけてきた天皇明仁と皇后美智子の「平成流」は退位後も受け継がれるのか。「象徴」と国民との奇妙な関係を問う。

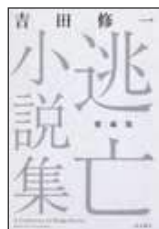
2019:3./ 2p,223p,35p

978-4-00-431763-0

本体 ¥840+税



朝日新聞 2019/11/09



逃亡小説集 愛蔵版

吉田 修一 著

KADOKAWA

職を失い、年老いた母を抱えた男。一世を風靡しながら、転落したアイドル。道ならぬ恋に落ちた、教師と元教え子。彼らが逃げた先に、安住の地はあるのか。人生の断面を切り取る小説集。『小説野性時代』掲載を単行本化。

2019:10./ 213p

978-4-04-107388-9

本体 ¥2,500+税



朝日新聞 2019/11/09



AI時代の労働の哲学(講談社選書メチエ 711)

稲葉 振一郎 著

講談社

AI が人間の仕事を奪うというのは、技術が仕事を奪うという「古くて新しい問題」。AI 化のインパクトはこれまでの機械化と同じなのか。「労働」概念自体から振り返り、資本主義そのものへの影響まで射程に入れて検討する。

2019:9./ 216p

978-4-06-517180-6

本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/11/09



富士日記を読む(中公文庫 ち 8-6)

中央公論新社 編

中央公論新社

武田百合子が夫・武田泰淳と過ごした 13 年間を描いた、日記文学の白眉「富士日記」はどのように読まれてきたのか。小川洋子、荻部直らによるエッセイと各紙誌掲載の書評を通して、その魅力を浮き彫りにする。

2019:10./ 301p

978-4-12-206789-9

本体 ¥900+税



朝日新聞 2019/11/09



ユー・アー・ヒア〜あなたの住む「地球」の科学〜

ニコラス・クレイン、白川 貴子 著

早川書房

アルプス山脈などの絶景を生んだ水循環システム、巨大都市の出現と人口移動のダイナミズム…。地球を歩きつづいた英<王立地理協会>前会長が地理学のエッセンスを縦横無尽に説き語る。角幡唯介のエッセイも収録。

2019:9./ 150p

978-4-15-209882-5

本体 ¥1,700+税



朝日新聞 2019/11/09



ナマケモノでいいんだよ

ルーシー・クック、橋本 篤史 著

光文社

人生を「我が物」にするためのヒントが満載! 最高時速 1.6km の超スローモーション、常に笑顔でクール(低体温)、1 日の 6 割は睡眠…。ナマケモノの愛らしい写真とともに、古今東西の名言を伝える。

2019:10./ 155p

978-4-334-96232-6

本体 ¥1,200+税



朝日新聞 2019/11/09



某

川上 弘美 著

幻冬舎

名前も記憶もお金も持たない某は、丹羽ハルカ(16 歳)に擬態することに決めた。変遷し続ける<誰でもない者>はついに仲間に出会う。愛と未来をめぐる長編。『小説幻冬』連載に加筆・修正。

2019:9./ 368p

978-4-344-03504-1

本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/11/09



オリンピックでよく見るよく聴く国旗と国歌

吹浦 忠正、新藤 昌子 著

三修社

アメリカ合衆国からロシア連邦まで、オリンピックでよく見る・よく聴く各国の国旗と国歌の歴史を解説した書。新藤昌子の歌唱と新垣隆のピアノ伴奏による 21 か国の国歌やカラオケ等を収めた CD 付き。見返しに世界の国旗あり。

2019:9./ 231p

978-4-384-05105-6

本体 ¥2,500+税



朝日新聞 2019/11/09



料理人にできること〜美食の聖地サンセバスチャンからの伝言〜

深谷 宏治 著

柴田書店

バルイベントによる町おこしの核心は、「食を通じて人をつなぐ」「料理人が社会に貢献する」という理想の源にあるのは-。バル街イベントの立役者が、さまざまな出会い・出来事を振り返りながら「美食による街づくり」を語る。

2019:8./ 243p

978-4-388-35356-9

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/11/09



銀河帝国は必要か?〜ロボットと人類の未来〜(ちくまプリマー新書 334)

稲葉 振一郎 著

筑摩書房

ロボットとの共存がリアリティを増してきた現代。「心ある者」とはいったいなんなのか? 人類の未来を、これからの倫理を、どのように構想すればいいのか? アシモフをはじめとした SF 作品を手がかりに考察する。

2019:9./ 217p

978-4-480-68354-0

本体 ¥860+税



朝日新聞 2019/11/09



エリ・ヴィーゼルの教室から〜世界と本と自分の読み方を学ぶ〜

アリエル・バーガー、園部 哲 著

白水社

自らを「教師」と定義していた「ホロコーストの証人」。25 年間にわたる著者の日記、5 年分の授業ノート、エリ・ヴィーゼルから教を受けた世界中の学生たちとのインタビューをもとに、エリ・ヴィーゼルの教をを詳解する。

2019:9./ 304p

978-4-560-09720-5

本体 ¥3,000+税



朝日新聞 2019/11/09



象徴天皇の旅～平成に築かれた国民との絆～(平凡社新書 889)

井上 亮 著

平凡社

即位後、全都道府県を二巡し、外国への訪問も 36 カ国を数える天皇には、旅こそ象徴のあり方の根幹という、自らが練り上げた象徴天皇像があった。天皇、皇后両陛下の旅の多くに同行してきた記者による見聞記。

2018:8./ 318p

978-4-582-85889-1

本体 ¥900+税



朝日新聞 2019/11/09



自然は導く～人と世界の変えるナチュラル・ナビゲーション～

ハロルド・ギャティ、岩崎 晋也 著

みすず書房

GPS のない時代に冒険家たちの尊敬を集め、「ナビゲーターたちのプリンス」とも呼ばれたハロルド・ギャティが遺した、ナチュラル・ナビゲーション入門書。世界中の自然のしるしの読みとり方と五感の使い方が学べる。

2019:9./ 279p

978-4-622-08836-3

本体 ¥3,600+税



朝日新聞 2019/11/09



歌舞伎さんぽ～芝居の世界を読んで楽しむ、歩いて楽しむ～

小田 豊二、タムラ フキコ 著

柏書房

赤穂浪士の討ち入りの足跡をたどり、お岩さんの無念に思いを馳せる…。歌舞伎の人気演目がすっきりわかる筋書きをイラストとともに掲載し、いまに残る名所旧跡・ゆかりの地を紹介する。データ:2019 年 7 月現在。

2019:8./ 159p

978-4-7601-5101-1

本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/11/09



「黒い羽根」の戦後史～炭鉱合理化政策と失業問題～

藤野 豊 著

六花出版

1940 年代末、多くの労働者が失業し、貧困と人身売買の温床となった炭鉱地帯。「炭鉱離職者臨時措置法」成立までの 15 年間に踏査し、炭鉱を犠牲にした高度経済成長を検証する。ジャケットそでにテキストデータ引換券付き。

2019:9./ 6p,374p

978-4-86617-079-4

本体 ¥2,800+税



朝日新聞 2019/11/09



天皇の「代替わり儀式」と憲法

中島 三千男 著

日本機関紙出版センター

今回の「代替わり」に伴う式典、儀式・行事は、現憲法の国民主権原理や政教分離原則に重大な抵触をするおそれがある…。天皇の「代替わり儀式」が孕んでいる問題点を明らかにする。大阪宗教者平和協議会主催の講演会を書籍化。

2019:7./ 97p

978-4-88900-969-9

本体 ¥900+税



朝日新聞 2019/11/09



逃亡小説集

吉田 修一 著

KADOKAWA

職を失い、年老いた母を抱えた男。一世を風靡しながら、転落したアイドル。道ならぬ恋に落ちた、教師と元教え子。彼らが逃げた先に、安住の地はあるのか。人生の断面を切り取る小説集。『小説野性時代』掲載を単行本化。

2019:10./ 213p

978-4-04-107387-2

本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/11/09、朝日新聞 2019/11/09



潜入ルポ amazon 帝国

横田 増生 著

小学館

“世界最大の小売企業”アマゾンによって、いまや日本市場は制圧されつつある。果たして、その現場では何が起きているのか。アマゾンのさまざまな現場に忍び込み、「巨大企業の光と影」を明らかにするルポルタージュ。

2019:9./ 351p

978-4-09-380110-2

本体 ¥1,700+税



朝日新聞 2019/11/09、読売新聞 2019/11/17



セロトニン

ミシェル・ウエルベック、関口 涼子 著

河出書房新社

巨大化学企業を退社し、農業関係の仕事に携わる 43 歳のフロランは、恋人の日本人女性ユズの秘密をきっかけに<蒸発者>となる…。過去に愛した女性の記憶と呪詛を交えて、現代社会の矛盾と絶望を描く。

2019:9./ 300p

978-4-309-20781-0

本体 ¥2,400+税



朝日新聞 2019/11/09、日本経済新聞 2019/11/16



星と龍

葉室 麟 著

朝日新聞出版

悪党と呼ばれる一族に生まれた楠木正成の信条は正義。近隣の諸将を討伐した正成は後醍醐天皇の信頼を得ていくが、自ら理想とする世の中と現実との隔たりに困惑し…。未完の長編小説。『週刊朝日』連載を単行本化。

2019:11./ 334p

978-4-02-251645-9

本体 ¥1,700+税



朝日新聞 2019/11/10



十三の海鳴り〜蝦夷太平記〜

安部 龍太郎 著

集英社

幕府に従うか、朝廷につくか。鎌倉末期の奥州、蝦夷。身の丈六尺三寸の青年・安藤新九郎がアイヌと力を合わせ切り拓く、真に進むべき道とは…。『小説すばる』掲載を加筆・修正し単行本化。安部版「太平記」シリーズ。

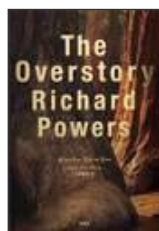
2019:10./ 485p

978-4-08-771680-1

本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/11/10



オーバーストーリー

リチャード・パワーズ、木原 善彦 著

新潮社

南北戦争前、アメリカ中西部である男が庭に植えた栗の木。絶滅の危機に瀕した巨木の「声」に召喚された名もなき人々。国家と巨大企業に、身のほど知らずの戦いを挑む彼らの運命は？ 地球環境と人間たちの営みを描き出す。

2019:10./ 674p

978-4-10-505876-0

本体 ¥4,300+税



朝日新聞 2019/11/10



サブリーナ

ニック・ドルナソ、藤井 光 著

早川書房

仕事から帰る途中にサブリーナが行方不明になって、ひと月が経った。ある日、衝撃的な映像を収めたビデオテープがメディア各社に送られ…。グラフィックノベル初のブッカー賞ノミネート作品。

2019:10./ 205p

978-4-15-209883-2

本体 ¥3,600+税



朝日新聞 2019/11/10



教行信証(岩波文庫 青 318-1)

親鸞、金子大栄 著

岩波書店

親鸞は煩惱に苦しみ続けた末、ついに人生の大悟に徹した。この書は、彼が自己の体験を生かして仏法を説き、それへの入門を明らかにした真宗の根本聖典である。

1957:10./ 447p

978-4-00-333181-1

本体 ¥1,130+税



朝日新聞 2019/11/16



結婚不要社会(朝日新書 717)

山田 昌弘 著

朝日新聞出版

欧米とは違うかたちで“結婚不要”になっている日本社会。なんのための結婚か? 結婚しない方が幸せなのか? 「婚活」の提唱者が平成を総括し、令和を予見する、結婚社会学の決定版。

2019:5./ 195p

978-4-02-295020-8

本体 ¥750+税



朝日新聞 2019/11/16



現場のドラッカー(角川新書 K-287)

國貞 克則 著

KADOKAWA

ドラッカー経営学を現場で活かし切るには、その言葉をどう読み解くか。売上至上主義を掲げて 20 年間赤字に陥っていた会社が、ドラッカー経営学の実践で V 字回復した事例をもとに、ドラッカー経営学の極意を説く。

2019:10./ 321p

978-4-04-082344-7

本体 ¥900+税



朝日新聞 2019/11/16



最悪の將軍(集英社文庫 あ 88-1)

朝井 まかて 著

集英社

生類憐れみの令により、犬公方とも呼ばれた五代將軍・徳川綱吉。一方では、江戸幕府の礎となる文治政治を推し進めた名君ともいわれている。その知られざる劇的な生涯を描いた傑作長編。

2019:10./ 339p

978-4-08-744034-8

本体 ¥700+税



朝日新聞 2019/11/16



僕は僕のまま

タン・フランス、安達 眞弓 著

集英社

パキスタン系の人々や同性愛者に対する差別と偏見、最愛の夫との出会い、アパレルブランドの経営、番組撮影秘話や自身の葛藤…。Netflix 人気番組「クイア・アイ」出演者が、自分らしく生きることのすばらしさを伝える。

2019:10./ 293p

978-4-08-773502-4

本体 ¥2,100+税



朝日新聞 2019/11/16



もっとさいはての中国(小学館新書 355)

安田 峰俊 著

小学館

ケニアに敷設された“中華鉄道”からサバンナを見学し、カナダでは秘密結社チャイニーズ・フリーメイソンを直撃! 世界中のディープな中国人社会や奇妙な中国人の姿を追ったルポ。「さいはての中国」に続く、シリーズ第 2 弾。

2019:10./ 285p

978-4-09-825355-5

本体 ¥840+税



朝日新聞 2019/11/16



子規の音(新潮文庫 も-21-4)

森 まゆみ 著

新潮社

病に伏した正岡子規は、目に映る景色で五感を鍛え、最期まで句や歌を作り続けた。子規を愛してやまない著者が、幕末の松山から東京まで足跡を丹念に辿り、日常生活の中での姿を描き出す傑作評伝。

2019.11./ 543p

978-4-10-139024-6

本体 ¥850+税



朝日新聞 2019/11/16



時間は存在しない

カルロ・ロヴェッリ 著

NHK出版

“ホーキングの再来”と評される天才物理学者が、「物理学的に時間は存在しない」という考察を展開するとともに、それにもかかわらず私たちはなぜ時間が存在するように感じるのかを、哲学や脳科学などの知見を援用して論じる。

2019.8./ 237p

978-4-14-081790-2

本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/11/16



日本語と論理～哲学者、その謎に挑む～(NHK 出版新書 600)

飯田 隆 著

NHK出版

単数と複数の区別がなくとも支障がないのはなぜ? 「多くのこども」と「こどもの多く」は何が違う? 「の」の意味とは? 「こそあど」の論理的共通点とは? 言語哲学の大家が、日本語の「謎」を徹底分析する。

2019.9./ 296p

978-4-14-088600-7

本体 ¥950+税



朝日新聞 2019/11/16



2050年のメディア

下山 進 著

文藝春秋

紙かデジタルか? 技術革新かスクープか? 『読売新聞』『日経新聞』『Yahoo!JAPAN』の3社を軸に、インターネット以降に起きた世界のメディア界の地殻変動を描く。

2019.10./ 437p

978-4-16-391117-5

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/11/16



インドが変える世界地図～モディの衝撃～(文春新書 1237)

広瀬 公巳 著

文藝春秋

今後、中国を上回る世界最大の人口となり、日本、ドイツを抜き世界3位の経済大国になると予測されるインド。モディ首相の強いリーダーシップ、AI戦略、巨大市場…。NHK元ニューデリー支局長がインドの最新情勢を伝える。

2019.10./ 255p

978-4-16-661237-6

本体 ¥880+税



朝日新聞 2019/11/16



公の時代

卯城 竜太、松田 修 著

朝日出版社

復興、オリンピック、芸術祭、都市再開発、表現の自由…。 “ブラックボックス化”した大正の前衛アートを手がかりに、開かれた社会と個について語り合う。ウェブ版『美術手帖』連載をもとに書籍化。

2019.9./ 322p

978-4-255-01135-6

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/11/16



近現代日本の民間精神療法～不可視なエネルギーの諸相～

吉永 進一 編

国書刊行会

催眠術は明治に輸入されて大正期に霊術・精神療法へと発展。これは西洋の近代オカルティズムと並行する、グローバルなオカルティズム運動であった。近現代日本の民間精神療法の全体像を、多様な視点から横断的に描く。

2019:9./ 399p,15p

978-4-336-06380-9

本体 ¥4,000+税



朝日新聞 2019/11/16



ルポ シニア婚活(幻冬舎新書 し-14-1)

篠藤 ゆり 著

幻冬舎

シニア世代の婚活とはどのようなものか、そして、パートナーを得たことで人生はどう変わったか。実際に婚活を実らせた人々の“その後”も追い、シニア婚活の実態を探る。婚活を成功させるポイントやトラブル回避法なども紹介。

2019:9./ 254p

978-4-344-98563-6

本体 ¥840+税



朝日新聞 2019/11/16



コミュニティと都市の未来～新しい共生の作法～(ちくま新書 1445)

吉原 直樹 著

筑摩書房

ICT の様々なコミュニケーションの新技术でつながった人々による、都市における新しい共生の作法がありえるのではないかな。多様性を認める寛容な精神に満ちた作法が、既存のコミュニティをも変えていく可能性を探る。

2019:10./ 286p

978-4-480-07259-7

本体 ¥880+税



朝日新聞 2019/11/16



世界のはての少年

ジェラルディン・マコックラン、杉田 七重 著

東京創元社

スコットランドのヒルタ島から、海鳥を獲りに無人島に渡った 12 人。だが約束の日が過ぎても迎えの船は来ない。厳しい自然の中、少年は仲間とともに生きのびるために闘う…。実際の事件をもとに描いた、勇気と成長の物語。

2019:9./ 317p

978-4-488-01096-6

本体 ¥2,800+税



朝日新聞 2019/11/16



日本婚活思想史序説～戦後日本の「幸せになりたい」～

佐藤 信 著

東洋経済新報社

2000 年代末に生じた婚活ブーム、いわば「婚活 1.0」に先駆けて存在した 1980 年代の結婚論ブームを「婚活 0.0」と呼んで、結婚への視線や婚活の論理がどのように変化してきたのか、その潮流を読み解く。

2019:5./ 13p,278p

978-4-492-22368-0

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/11/16



専門図書館探訪～あなたの「知りたい」に応えるガイドブック～(ライブラリーぶっくす)

青柳 英治、長谷川 昭子、専門図書館協議会 著

勉誠出版

一般の人が利用できる公開型の専門図書館 61 館を取り上げ、そのコレクションやレファレンスサービスの内容、催しものなどを、カラー写真とともに紹介する。座席数や SNS の状況などをまとめたリストも収録。

2019:10./ 15p,129p

978-4-585-20070-3

本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/11/16



Stage For?～舌がん「ステージ 4」から希望のステージへ～

堀 ちえみ 著

扶桑社

舌がんの「ステージ 4」と診断され、舌の 6 割以上を切除する大手術を受けるが、その後、食道がんが発覚し…。家族の愛に支えられて生還した堀ちえみが、苦しみ、葛藤、そして、がんが教えてくれたことを綴る。

朝日新聞 2019/11/16

2019:10./ 187p

978-4-594-08321-2

本体 ¥1,300+税



知っておきたい日本の古典芸能 歌舞伎

瀧口 雅仁 著

丸善出版

日本を代表する芸能「歌舞伎」。実際に起こった事件を軸に、人々がなぜそのように思い、それに準ずる行動を取ったのかを考えさせられる名作古典 9 作品を収録。作品・用語解説も掲載。中学校以上で習う漢字にはルビ付き。

朝日新聞 2019/11/16

2019:10./ 8p,166p

978-4-621-30436-5

本体 ¥2,000+税



ロヒンギャ問題とは何か～難民になれない難民～

日下部 尚徳、石川 和雅 著

明石書店

深刻化・複雑化するロヒンギャ難民問題の全体像が?める書。ロヒンギャの歴史や社会的位置づけ、開発援助論、難民・移民研究の視座から見るロヒンギャ問題に関して、議論を深めるための幅広い論点を提示する。

朝日新聞 2019/11/16

2019:9./ 333p

978-4-7503-4869-8

本体 ¥2,500+税



大江戸少女カゲキ団<1>(ハルキ文庫 時代小説文庫 な 10-11)

中島 要 著

角川春樹事務所

花のお江戸両国の掛け茶屋まめやで働く芹。幼いころ、役者だった父のもとで芝居の稽古に励んでいたが、あることがきっかけで芝居や踊りから遠ざかってしまう。ある日、芹が心の中で踊りの師と仰ぐ東花円が突如まめやに現れ…。

朝日新聞 2019/11/16

2019:10./ 258p

978-4-7584-4295-4

本体 ¥640+税



大阪ミナミの子どもたち～歓楽街で暮らす親と子を支える夜間教室の日々～

金 光敏 著

彩流社

孤独、貧困、暴力被害、ドラッグ、家族離散…。西日本最大の歓楽街で様々な問題を抱える子どもたち・親たちに、地域に根を下ろし手を差し伸べ見守り続けた「Minami こども教室」の活動の軌跡。

朝日新聞 2019/11/16

2019:9./ 173p

978-4-7791-2612-3

本体 ¥1,700+税



こちらアニマル社商品企画部育児課

内野 こめこ、今泉 忠明 著

イースト・プレス

ヒトのオス、動物から子育てを学ぶ!? 人間と同等の知性と感情を持った「知性動物」たちの会社に勤めることになった田中さん(ヒト♂)。軽率な発言が多く、妊娠中の妻の地雷を踏みまくっていたが…。

朝日新聞 2019/11/16

2019:10./ 165p

978-4-7816-1823-4

本体 ¥1,000+税





世界を人間の目だけで見るのはもう止めよう～言語生態学者鈴木孝夫講演集～

鈴木 孝夫 著

富山房インターナショナル

現在の日本を代表する知的巨匠、初の講演集。言語学の長年の経験から日本語の特性を説明し、地球と人類を滅亡から救うには、共存に努めようとする文化を有する日本が世界を導いていくべきであることを分かりやすく説く。

2019:10./ 205p

978-4-86600-073-2

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/11/16



ポバティー・サファリ～イギリス最下層の怒り～

ダレン・マクガーヴェイ、山田 文 著

集英社

イギリス中のありとあらゆる場所に貧窮状態の人たちのコミュニティがある。貧困とその破壊的な影響を当事者として経験した著者が、自身の壮絶な生い立ちを振り返りながら、いかにして貧困から抜け出すかを提示する。

2019:9./ 342p

978-4-08-789010-5

本体 ¥2,400+税



朝日新聞 2019/11/16、日本経済新聞 2019/11/23



誰が科学を殺すのか～科学技術立国「崩壊」の衝撃～

毎日新聞「幻の科学技術立国」取材班 著

毎日新聞出版

日本の科学技術力の急転落は一体どうして起きてしまったのか。「科学技術立国・日本」再生への処方箋は果たしてあるのか。平成の国力衰退をもたらした科学政策大改悪の驚くべき真実をあばく。『毎日新聞』連載を再構成・加筆。

2019:10./ 269p

978-4-620-32607-8

本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2019/11/16、毎日新聞 2019/11/24



海洋プラスチック汚染～「プラなし」博士、ごみを語る～(岩波科学ライブラリー 288)

中嶋 亮太 著

岩波書店

なぜ海の生きものたちはプラスチックを食べるのか。生分解性プラスチックなら問題は解決するのか…。若手海洋学者が、海の汚染の現状と問題を整理するとともに研究状況をわかりやすく伝え、現時点での解決策を提示する。

2019:9./ 6p,128p,13p

978-4-00-029688-5

本体 ¥1,400+税



朝日新聞 2019/11/23



東海道四谷怪談(岩波文庫 黄 213-1)

鶴屋南北 著

岩波書店

「お岩様」の怪談として人に知られている四谷怪談は、「怪談もの」の傑作であるばかりでなく、歌舞伎脚本史上に「生世話物」の分野を確立した南北一代の名作である。本書は新発見の原原本本から校訂した。

1956:8./ 349p

978-4-00-302131-6

本体 ¥970+税



朝日新聞 2019/11/23



「空気」を読んでも従わない〜生き苦しさからラクになる〜(岩波ジュニア新書 893)

鴻上 尚史 著

岩波書店

どうしてこんなに人の頼みを断るのが苦しいのか。どうしてこんなに周りの目が気になるのか。どうしてこんなにラインやメールが気になるのか…。鴻上尚史が、「生き苦しさ」のヒミツと「生きやすく」なる方法を伝える。

2019:4./ 12p,189p

978-4-00-500893-3

本体 ¥820+税



朝日新聞 2019/11/23



OUT<上>(講談社文庫)

桐野 夏生 著

講談社

朝日新聞 2019/11/23

2002:6./ 446p

978-4-06-273447-9

本体 ¥667+税



OUT<下>(講談社文庫)

桐野 夏生 著

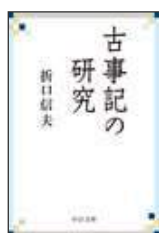
講談社

朝日新聞 2019/11/23

2002:6./ 340p

978-4-06-273448-6

本体 ¥619+税



古事記の研究(中公文庫 お41-5)

折口 信夫 著

中央公論新社

昭和 9 年と 10 年に長野県下伊那郡教育会で行われた 3 つの講義「古事記の研究」(1・2)と「万葉人の生活」を収める。「古事記研究の初歩」と折口信夫自身が呼ぶ一般向けの入門講義を文庫化。

2019:9./ 347p

978-4-12-206778-3

本体 ¥1,000+税



朝日新聞 2019/11/23



マボロシの茶道具図鑑

依田 徹 著

淡交社

茶壺松島、井戸茶碗豊臣秀吉所持、黒楽茶碗鉢開…。戦乱等に巻き込まれマボロシとなった、信長・秀吉らの愛した名物茶道具を、様々な記録からイラストで再現する。マボロシとなる前に、その茶道具を見た人が残した記録も掲載。

2019:9./ 191p

978-4-473-04330-6

本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2019/11/23



シェイクスピア全集<7> リチャード三世(ちくま文庫)

シェイクスピア 著

筑摩書房

朝日新聞 2019/11/23

1999:4./ 289p

978-4-480-03307-9

本体 ¥1,000+税





敗者が変えた世界史<上> ハンニバルからクレオパトラ、ジャンヌ・ダルク

ジャン=クリストフ・ビューイツソン、エマニュエル・エシュト、神田 順子、田辺 希久子 著

原書房

古代から 20 世紀までの歴史のなかから、大志を抱きながらも敗れ去った 13 人を選び、史実を採りつつ、味わい深い筆致でその運命を描く。上は、ハンニバル、クレオパトラ、ジャンヌ・ダルクら 6 人を取り上げる。

2019:9./ 3p,229p

978-4-562-05683-5

本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/11/23



敗者が変えた世界史<下> リー将軍、トロツキーからチェ・ゲバラ

ジャン=クリストフ・ビューイツソン、エマニュエル・エシュト、清水 珠代、村上 尚子、濱田 英作 著

原書房

古代から 20 世紀までの歴史のなかから、大志を抱きながらも敗れ去った 13 人を選び、史実を採りつつ、味わい深い筆致でその運命を描く。下は、コンデ大公、トロツキー、?介石、チェ・ゲバラら 7 人を取り上げる。

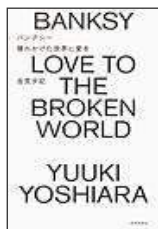
2019:9./ 3p,226p

978-4-562-05684-2

本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/11/23



バンクシー 壊れかけた世界に愛を

吉荒 夕記 著

美術出版社

なぜ、作品はオークション会場で細断されたのか。イギリス在住の博物館学研究者が、世界各地で巻き起こされる事件から、バンクシーが現代社会に出現した意味を考察する。

2019:9./ 231p 図版 6 枚

978-4-568-20275-5

本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/11/23



にっぽん建築散歩

小林 泰彦 著

山と溪谷社

商港ならではの銀行建築が残る小樽、江戸以来の学問と文化の街・神田、ヴォーリズ建築が残る近江八幡…。日本全国 30 エリアの歴史的建物を、イラストと地図とともに紹介する。雑誌『パートナー』掲載を加筆し書籍化。

2019:11./ 158p

978-4-635-24119-9

本体 ¥1,400+税



朝日新聞 2019/11/23



出版文化と編集者の仕事～個人的な体験から～(SQ 選書 18)

大竹 永介 著

社会評論社

編集者とはどういう仕事か。そもそも出版とは。新人作家を担当する面白さ。企画を通すまでの苦労…。吉田まゆみ、大和和紀らを担当した編集者生活をふりかえり、具体的なエピソードを通して体験的編集者論を語る。

2019:10./ 221p

978-4-7845-1747-3

本体 ¥1,700+税



朝日新聞 2019/11/23



原子力の人類学～フクシマ、ラ・アーク、セラフィールド～

内山田 康 著

青土社

人の目に映らない放射能汚染。その不可視の環境下で、原子力災害は引き起こされてきた。人類学者がフランスのラ・アーク、イギリスのセラフィールド、日本の福島という原子力と結びついた土地を訪ね、新たな連帯の方途を捜す。

2019.9./ 231p,8p

978-4-7917-7219-3

本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/11/23



おなかぺこぺこオノマトペ～擬音語・擬態語をバイリンガルで理解しよう!～

きの とりこ 著

千倉書房

日本語のオノマトペの解説書。「おなかぺこぺこ」「へとへと」などの擬音語・擬態語を、イラストと共に楽しく紹介。場面を説明した和英の文を比べたり、一つひとつの語の意味を確認できるよう構成する。

2019.10./ 160p

978-4-8051-1183-3

本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2019/11/23



あの人は今～昭和芸能界をめぐる小説集～

高部 務 著

鹿砦社

スター誕生とテレビ。昭和の経済成長が生んだ、おかしくも悲しい人間模様…。異様な熱気に包まれた昭和の芸能界を舞台にした感動の短編小説集。表題作など全5編を収録する。

2019.11./ 325p

978-4-8463-1320-3

本体 ¥1,400+税



朝日新聞 2019/11/23



世界の少数民族(NATIONAL GEOGRAPHIC)

イアゴ・コラツツァ、グレッタ・ローパ、竹花 秀春、金丸 良子 著

日経ナショナルジオグラフィック社

いつまでこの姿が見られるのだろうか。遊牧生活を続けるラバーリー、マンガライの華麗な戦争儀式、来訪者を歓迎しないモロカン派…。写真家と作家が、二人三脚で世界の少数民族を訪ねた貴重な記録。

2019.10./ 261p

978-4-86313-454-6

本体 ¥4,200+税



朝日新聞 2019/11/23



住まいが都市をつくる～モダニズム建築のアナザー・ストーリー～

小沢 明 著

左右社

サヴォワ邸に結実するモダニズムの胎動を丁寧に紐解き、代官山ヒルサイドテラスを今日まで続くアーバン・ヴィラ探求の歴史に位置付けなおす。モダニズム建築史の知られざる底流を明らかにする一冊。

2019.9./ 261p,2p

978-4-86528-250-4

本体 ¥2,500+税



朝日新聞 2019/11/23



カニという道楽～ズワイガニと日本人の物語～

広尾 克子 著

西日本出版社

道頓堀にあるカニ料理専門店「かに道楽」、料理人や漁師の創意工夫、カニを産地へ食べに行くカニツーリズム…。冬の味覚として深く愛されてきたズワイガニをめぐって繰り広げられる日本人の物語を、多角的な視点から描く。

2019.10./ 254p

978-4-908443-45-9

本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2019/11/23



春原さんのリコーダー(ちくま文庫 ひ 19-3)

東 直子 著

筑摩書房

転居先不明の判を見つめつつ春原さんの吹くリコーダー 作家としても活躍する歌人・東直子のデビュー歌集。独特の世界観が広がる 347 首を収録する。花山周子による解説、川上弘美との対談も掲載。

2019:10./ 215p

978-4-480-43620-7

本体 ¥700+税



朝日新聞 2019/11/23、毎日新聞 2019/11/25



人それを俳句と呼ぶ〜新興俳句から高柳重信へ〜

今泉 康弘 著

沖積舎

俳句(広義の詩)と視覚芸術との関わりを明らかにし、高浜虚子からモダニズムとしての新興俳句、戦後の俳句における新興俳句からの影響といった近代俳句の歴史を叙述する。『円錐』『夢幻航海』掲載を書籍化。

2019:10./ 242p

978-4-8060-4778-0

本体 ¥2,500+税



朝日新聞 2019/11/24



どこか、安心できる場所で〜新しいイタリアの文学〜

パオロ・コニェッティ、アンドレア・ラオス 編

パオロ・コニェッティ 著

国書刊行会

いまを生きる新しいイタリアの作家による短篇アンソロジー。2000 年以降に発表された 13 人の作家(うち 11 人が日本初紹介)による 15 の物語を収録する。巻末に各作家・作品を詳述する解説も掲載。

2019:11./ 329p

978-4-336-06539-1

本体 ¥2,400+税



朝日新聞 2019/11/27



ポルトガル短篇小説傑作選〜よみがえるルーススの声〜(現代ポルトガル文学選集)

黒澤 直俊 編

現代企画室

ジョゼ・レイス・ペイショット、ドウルセ・マリア・カルドーゾ、リカルド・アドルフォ、ジョルジュ・デ・セナなど重鎮から新鋭まで、ポルトガル現代文学の魅力を存分に示す 12 人の作家たちによる珠玉の掌篇集。

2019:11./ 200p

978-4-7738-1905-2

本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2019/11/27



スモンスモン

岩波書店

ゴンゴン星に住んでいるスモンスモンは、ある朝、トントンに乗ってロンロンをもぎに出かけました。ところが、途中でゾンゾンに落ちてしまい…。楽しい音と素朴なやさしさがあふれる絵本。

2019:10./ 38p

978-4-00-112686-0

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/11/30



近代〜未完のプロジェクト〜(岩波現代文庫)

J.ハーバーマス 著

岩波書店

朝日新聞 2019/11/30

2000:1./ 309p

978-4-00-600006-6

本体 ¥1,300+税





ネットは社会を分断しない(角川新書 K-289)

田中 辰雄、浜屋 敏 著

KADOKAWA

過激化しているのは、ネットを使わないはずの高齢者。ネット上の投稿の約半数は、0.23%の人が書き込んでいる。10 万人規模の実証調査で、インターネットの現代社会の実態に迫る。

2019:10./ 236p

978-4-04-082303-4

本体 ¥860+税



朝日新聞 2019/11/30



フラミンゴボーイ

マイケル・モーパーゴ、杉田 七重 著

小学館

ナチスが侵攻してきたフランスで、何が起きたのか。フランスの南部、フラミンゴの生息地カマルグを舞台にした、フラミンゴと話ができる不思議な力を持つ少年とロマの少女の切ないけれど優しい物語。

2019:10./ 301p

978-4-09-290627-3

本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2019/11/30



ドイツ統一問題について

ギュンター・グラス 著

中央公論新社

朝日新聞 2019/11/30

1990:8./ 232p

978-4-12-001957-9

本体 ¥1,456+税



このあたりの人たち(文春文庫 か 21-9)

川上 弘美 著

文藝春秋

町の誰も行くことのない「スナック愛」、6 人家族ばかりが住む団地の呪い、どうしても銅像になりたかった小学生…。文学の最前線を牽引する作家・川上弘美が創りあげた、かつて見たことのない物語。

2019:11./ 151p

978-4-16-791380-9

本体 ¥580+税



朝日新聞 2019/11/30



動物たちが教えてくれた「良い生き物」になる方法

サイ・モンゴメリー、古草 秀子 著

河出書房新社

動物たちは「良い生き物になる方法」を教えてくれた「教師」だった。エミュー、オコジョ、キノボリカンガルー、ミズダコなど、著者のこれまでの人生に影響をもたらした大切な動物たちの思い出を描く。

2019:10./ 190p

978-4-309-25399-2

本体 ¥1,750+税



朝日新聞 2019/11/30



澁澤龍彦 泉鏡花セレクション<1> 龍蜂集

泉 鏡花、澁澤 龍彦 編

泉 鏡花 著

国書刊行会

幻想作家・泉鏡花の膨大多彩な作品群から、澁澤龍彦ならではの鑑識眼が選び抜いた小説・戯曲を集成。1 は、「山吹」「紫陽花」「酸漿」「春昼」「海異記」「貝の穴に河童の居る事」など全 21 篇を収録。

2019:10./ 501p

978-4-336-06545-2

本体 ¥8,800+税



朝日新聞 2019/11/30



句と絵で綴る余白の時間(とき)

松本 白鸚 著

春陽堂書店

「いまこの瞬間」を感じることが何よりも好きです。喜寿を迎えた二代目松本白鸚がこれまでに詠んだ句、綴ったエッセイ、直筆の書画をまとめる。金子兜太、千住博との対談も収録。

2019:10./ 166p

978-4-394-90360-4

本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2019/11/30



村上春樹の短編を英語で読む 1979?2011<上>(ちくま学芸文庫 カ 38-2)

加藤 典洋 著

筑摩書房

英訳された作品を糸口に村上春樹の短編世界を読み解き、その全体像を一望する画期的批評。短編小説からアプローチすることで、村上の小説家としての「闘い」の様相をあざやかに描き出す。上は、初期・前期の作品群を扱う。

2019:10./ 430p

978-4-480-09945-7

本体 ¥1,300+税



朝日新聞 2019/11/30



村上春樹の短編を英語で読む 1979?2011<下>(ちくま学芸文庫 カ 38-3)

加藤 典洋 著

筑摩書房

英訳された作品を糸口に村上春樹の短編世界を読み解き、その全体像を一望する画期的批評。短編小説からアプローチすることで、村上の小説家としての「闘い」の様相をあざやかに描き出す。下は、中期・後期の作品群を扱う。

2019:10./ 318p

978-4-480-09946-4

本体 ¥1,200+税



朝日新聞 2019/11/30



独裁者のデザイン～ヒトラー、ムッソリーニ、スターリン、毛沢東の手法～

松田 行正 著

平凡社

デザインは運用の仕方によって希望にも刃にもなる。ヒトラーを中心に、独裁者たちがプロパガンダを駆使してどのように大衆を踊らせ、抑圧していったかを、デザインの観点から見直す。図版も多数収録。

2019:9./ 351p

978-4-582-62068-9

本体 ¥3,200+税



朝日新聞 2019/11/30



ベニカルロの夜会～スペインの戦争についての対話～(叢書・ユニベルシタス 1099)

マヌエル・アサーニャ 著

法政大学出版局

激しいスペイン内戦の果てに亡命先で没した政治家マヌエル・アサーニャ。民主主義的共和主義を理想とする文学者でもあったアサーニャが、すさまじい殺戮と悲劇の渦中にある祖国の思想状況を対話形式で描く。

2019:9./ 4p,254p

978-4-588-01099-6

本体 ¥3,800+税



朝日新聞 2019/11/30



i(ポプラ文庫 に 2-1)

西 加奈子 著

ポプラ社

「この世界にアイは存在しません」入学式の翌日、数学教師は言った。その言葉は、ワイルド曾田アイに衝撃を与え、彼女の胸に居座り続けることになる。ある「奇跡」が起こるまでは…。又吉直樹との対談も収録。

2019:11./ 323p

978-4-591-16445-7

本体 ¥680+税



朝日新聞 2019/11/30



在日コリアン弁護士から見た日本社会のヘイトスピーチ～差別の歴史からネット被害・大量懲戒請求まで～

在日コリアン弁護士協会 編
明石書店

主に在日コリアンに焦点を当て、ヘイトスピーチとその被害の実態、背景にある歴史的経過や社会の現状、ヘイトスピーチをなくすために取り組まれていることなどを、実務に携わる法律家としての視点から示す。

2019:10./ 266p
978-4-7503-4906-0

本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2019/11/30



アドリブ

佐藤 まどか 著
あすなろ書房

フルートとの電撃的な出会いから 5 年。天性の才能を認められ、難関の国立音楽院に入学したユージだが、クラシック音楽界の厳しさを目の当たりにし…。イタリア、トスカナの小さな町に暮らす少年の青春音楽小説。

2019:10./ 239p
978-4-7515-2942-3

本体 ¥1,400+税



朝日新聞 2019/11/30



メリークリスマス～世界の子どものクリスマス～

R.B.ウィルソン、市川 里美、さくま ゆみこ 著
BL出版

ポーランド、ノルウェー、メキシコ…。世界 18 か国のクリスマスをイラストで紹介する。クリスマスの物語、6 曲の讃美歌、ショウガパンや文字のケーキのレシピ、わたらの星の作り方なども掲載。

2018:10./ 72p
978-4-7764-0853-6

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2019/11/30



ベルリン分断された都市

ズザンネ・ブッデンパルク、トーマス・ヘンゼラー、エドガー・フランツ、深見 麻奈 著
彩流社

ドイツ分断のリアル！ 冷戦による分断を最も顕著に体现した都市の歴史漫画。ベルリンの壁建設から崩壊までの東ベルリンの実態を、5 人の実話で描き出す。歴史背景を解説するコラムも収録。

2013:9./ 95p
978-4-7791-1932-3

本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/11/30



の

junaida 著
福音館書店

「わたしの」「お気に入りのコートの」「ポケットの中のお城の」「いちばん上のながめのよい部屋の」…。いつもこっそり、言葉と言葉のすきまにいる「の」。不思議な「の」に導かれた、時間と空間をこえた旅を描きます。

2019:11./ 78p
978-4-8340-8530-3

本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/11/30



自衛隊防災 BOOK～自衛隊 OFFICIAL LIFE HACK CHANNEL～

マガジンハウス 編

マガジンハウス

人命救助、食料の確保や給水、緊急措置…。危機管理のプロ・自衛隊に伝わる、災害時のトラブルに対処するノウハウを、多数の写真でわかりやすく紹介する。日常生活に役立つテクニックも満載。

2018:8./ 155p

978-4-8387-3010-0

本体 ¥1,200+税



朝日新聞 2019/11/30



近代出版史探索

小田 光雄 著

論創社

古本屋散策から見えてくるものとは？ 古本の世界を渉猟するうちに、人物と書物が無限に連鎖し、歴史の闇に消えた近代出版史が浮き彫りになる。ブログ『出版・読書メモランダム』連載「古本夜話」を加筆修正し単行本化。

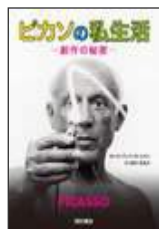
2019:10./ 727p

978-4-8460-1879-5

本体 ¥6,000+税



朝日新聞 2019/11/30



ピカソの私生活～創作の秘密～

オリヴィエ・W.ピカソ、岡村 多佳夫 著

西村書店

親しき者だけが知る、画家パブロ・ピカソの素顔。ピカソの孫である著者が、「女性」「家族」「政治」「金」「死」をテーマに、R・キャパやマン・レイによる貴重な写真と作品で、祖父である巨匠の生涯をたどる。

2019:10./ 327p

978-4-86706-000-1

本体 ¥3,800+税



朝日新聞 2019/11/30



江戸のうんちく道中～東海道五拾三次～(切手ビジュアルトラベル・シリーズ)

稲垣 進一 著

日本郵趣出版

歌川広重の不朽の名作、保永堂版「東海道五拾三次」の日本橋から三条大橋までをたどりつつ、浮世絵の細部に潜む街道のトリビアをピックアップ。危険な川渡し、駕籠と馬、大名行列など、興味深い江戸のうんちくも紹介する。

2019:11./ 127p

978-4-88963-836-3

本体 ¥2,400+税



朝日新聞 2019/11/30



彼岸の図書館～ぼくたちの「移住」のかたち～

青木 真兵、青木 海青子 著

夕書房

命からがらたどり着いた移住先、奈良県東吉野村でぼくたちが始めたのは、自宅を図書館として開くことだった。12 の対話とエッセイで綴る、「人文系私設図書館ルチャ・リブロ」という「実験」のはじまりとこれから。

2019:10./ 284p

978-4-909179-04-3

本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2019/11/30



中国くいしんぼう辞典

崔 岱遠、李 楊樺、川 浩二 著

みずず書房

中国各地の料理を、「家で食べる」「街角で食べる」「飯店(レストラン)で食べる」の3部構成で紹介。南北にわたって関わりあうさまざまな食べ物から人物、店、故事来歴までを、素朴かつ的確なタッチのイラストとともに綴る。

2019:10./ 10p,365p,8p

978-4-622-08827-1

本体 ¥3,000+税



朝日新聞 2019/11/30、日本経済新聞 2019/11/30



いよいよながらルパンを生み出した作家〜モーリス・ルブラン伝〜

ジャック・ドウルワール、小林 佐江子 著

国書刊行会

ルパンが私の影ではなく、私のほうがルパンの影なのだ。世界中で絶大な人気を誇りつづける<怪盗紳士アルセーヌ・ルパン>の生みの親、モーリス・ルブランの初の伝記。

2019:9./ 415p,13p

978-4-336-06383-0

本体 ¥3,600+税



東京・中日新聞 2019/11/03



ルポ平成ネット犯罪(ちくま新書 1434)

渋井 哲也 著

筑摩書房

出会い系サイト、SNS による売買春、闇サイトの違法・脱法ドラッグ売買…。新しいメディアと個人のかかわり取材するジャーナリストが、インターネットに広がるアンダーグラウンドの背景と変化を追う。

2019:9./ 269p

978-4-480-07252-8

本体 ¥860+税



東京・中日新聞 2019/11/03



キャパとゲルダ〜ふたりの戦場カメラマン〜

マーク・アロンソン、マリナ・ブドーズ、原田 勝 著

あすなろ書房

激動の 1930 年代、スペイン内戦を世界に伝えた 2 人のカメラマン、ロバート・キャパとゲルダ・タロー。夢と理想に燃え、カメラを武器に革命に身を投じた、若き 2 人の青春の物語。

2019:9./ 302p

978-4-7515-2941-6

本体 ¥1,800+税



東京・中日新聞 2019/11/03



タネの未来〜僕が 15 歳でタネの会社を起業したわけ〜

小林 宙 著

家の光協会

15 歳でタネの会社を起業した著者は、現在高校 2 年生。日本の各地域の伝統野菜を守るため、タネ流通の新しい仕組みづくりを目指す彼が、なぜタネが大事なのか、タネ業界を今後どう変えていこうとしているのかなどを綴る。

2019:9./ 157p

978-4-259-54771-4

本体 ¥1,600+税



東京・中日新聞 2019/11/03、毎日新聞 2019/11/03



皇后考(講談社学術文庫 2473)

原 武史 著

講談社

悠久なる日本の歴史のなかで、皇后の果たした役目とは何だったのか。神功皇后と神武天皇、皇太子妃節子の孤独、大正の終焉…。皇后の存在を世に問う論考を集成。

2017:12./ 653p

978-4-06-292473-3

本体 ¥1,850+税



東京・中日新聞 2019/11/10



日本の地方議会〜都市のジレンマ、消滅危機の町村〜(中公新書 2558)

辻 陽 著

中央公論新社

地方ではなり手不足に苦しみ、都市では「抵抗勢力」あるいは「追認機関」と批判され、住民との距離が広がるばかりの地方議会。その仕組みやカネ、選挙の実態、職責までを丁寧に描き、日本の地方議会にいま必要な改革を示す。

2019:9./ 5p,253p

978-4-12-102558-6

本体 ¥860+税



東京・中日新聞 2019/11/10



落日

湊 かなえ 著

角川春樹事務所

新人脚本家の甲斐千尋は、新進気鋭の映画監督・長谷部香から、新作の相談を受けた。香は 15 年前に起きた、判決も確定している「笹塚町一家殺害事件」を手がけたいというが…。絶望の淵を見た人々の祈りと再生の物語。

東京・中日新聞 2019/11/10

2019:9./ 380p

978-4-7584-1342-8

本体 ¥1,600+税



地質学者ナウマン伝～フォッサマグナに挑んだお雇い外国人～(朝日選書 990)

矢島 道子 著

朝日新聞出版

21 歳で東大の地質学科教授に迎えられ、本州を切り裂くフォッサマグナを発見、高精度の日本地質図を完成させたお雇い外国人ナウマン。東大で地質学を学んだ著者が、彼の波瀾万丈の足跡と、日本地質学の黎明期を描き出す。

東京・中日新聞 2019/11/17

2019:10./ 320p,45p

978-4-02-263090-2

本体 ¥1,700+税



「姐御」の文化史～幕末から近代まで教科書が教えない女性史～

伊藤 春奈 著

DU BOOKS

はっきりと自分の意見を言う。不要な笑顔を見せない。女性の正当な怒りの言葉「啖呵」を武器に使う。姐御が登場する時代劇、やくざ映画を、歴史背景や、製作された時代の社会情勢とともにひもとく、女性像の変化を探る。

東京・中日新聞 2019/11/17

2019:9./ 16p,267p

978-4-86647-103-7

本体 ¥2,200+税



グレタたったひとりのストライキ

マレーナ・エルンマン、ベアタ・エルンマン、グレタ・トゥーンベリ、スヴェンテ・トゥーンベリ、羽根 由、寺尾 まち子 著

海と月社

16 歳で世界を動かす気候活動家グレタ。彼女が「気候のための学校ストライキ」を始めるまでのことや、人類に迫っている危機「気候変動」について、グレタの家族が語る。世界各地での「グレタのスピーチ」も多数収録。

東京・中日新聞 2019/11/17

2019:10./ 305p

978-4-903212-68-5

本体 ¥1,600+税



反逆者たちのアメリカ文化史～未来への思考～

堀 真理子 著

春風社

女性、黒人、ユダヤ人、メキシコ人…差別・迫害に抗い続けてきた側の視点から、19 世紀以降のアメリカ文化を通覧。多様な価値観を包摂してきたアメリカの魅力を示し、「トランプ現象」以降の行く末を問う。

東京・中日新聞 2019/11/17、日本経済新聞 2019/11/23

2019:9./ 264p,6p

978-4-86110-659-0

本体 ¥2,700+税



愛という名の支配(新潮文庫 た-128-1)

田嶋 陽子 著

新潮社

母から、男から、世間から受けてきた抑圧。闘いつづけているうちに、人生の半分が終わっていた。自らの体験を語り、この社会を覆いつくしている「構造としての女性差別」を説き明かした、フェミニズムの先駆的名著。

東京・中日新聞 2019/11/17、日本経済新聞 2019/11/30

2019:11./ 277p

978-4-10-101651-1

本体 ¥590+税





「国境なき医師団」になろう! (講談社現代新書 2540)

いとう せいこう 著

講談社

「国境なき医師団」(MSF)ってどんな組織? どんな人が働いてるの? どこに派遣されるの? 給料はもらえるの? 知ってるようで知らない MSF のリアルに現地ルポと日本人スタッフへのインタビューで迫る。

2019:9./ 269p

978-4-06-517315-2

本体 ¥900+税



東京・中日新聞 2019/11/24



海峡に立つ～泥と血の我が半生～

許 永中 著

小学館

在日部落、愛と青春、逮捕、逃亡生活、日韓の未来…。イトマン事件から 28 年。「戦後最大のフィクサー」「闇社会の帝王」と呼ばれた男が自身の半生を初めて綴る。崔書勉との対談も収録。

2019:9./ 383p

978-4-09-388625-3

本体 ¥1,600+税



東京・中日新聞 2019/11/24



一億三千万人のための『論語』教室 (河出新書 012)

高橋 源一郎 著

河出書房新社

「学ぶこと」の意味から「善と悪」の問題まで、二千五百年前の「白熱教室」開講! 政治や経済、社会の疑問や、人間関係の悩みなど、生きる上でのあらゆる「問い」に孔子センセイが答える「論語」。高橋源一郎による完全訳。

2019:10./ 533p

978-4-309-63112-7

本体 ¥1,200+税



東京・中日新聞 2019/11/24



和歌の黄昏短歌の夜明け

島内 景二 著

花鳥社

「古今和歌集から日本文化が始まる」という新常識のもと、和歌・短歌の変遷を丁寧にもとく。現代が直面する文化的な難問と向かい合うため、日本の近代を問い直す。『短歌往来』連載等を加筆・改訂。

2019:9./ 343p

978-4-909832-08-5

本体 ¥2,800+税



東京・中日新聞 2019/11/24



リング (角川ホラー文庫)

鈴木 光司 著

角川書店

読売新聞 2019/11/03

1993:4./ 331p

978-4-04-188001-2

本体 ¥600+税



ききりんご紀行 (集英社文庫 た 33-24)

谷村 志穂 著

集英社

サンふじと有袋ふじの違いって? りんごの“お父さん”“お母さん”とは? 蜜に秘密が? 北大農学部出身の恋愛小説家が、約 30 種のりんごを食べ比べ! 文系理系の両視点から、りんごの魅力を綴る。

2019:9./ 193p

978-4-08-744027-0

本体 ¥580+税



読売新聞 2019/11/03



万葉集であるく奈良(とんぼの本)

上野 誠、蜂飼 耳、馬場 基 著

新潮社

飛鳥京から藤原京、そして平城京へ。「万葉集」の歌を口ずさめば、古き都に思いを馳せ、新しい都に胸ふくらませる人々の声が聞こえてくる。3つの都を軸に、日本の歌の故郷をガイドする。『芸術新潮』掲載を増補・再編集。

2019:10./ 125p

978-4-10-602290-6

本体 ¥1,600+税



読売新聞 2019/11/03



魂の沃野<上>(中公文庫 き 17-10)

北方 謙三 著

中央公論新社

ある夜、16歳の風谷小十郎は、山中の樹にもたれて嗚咽を漏らす奇妙な坊主と出会い…。加賀の地に燃え広がる一向一揆の炎。蓮如、富樫政親との奇縁から、闘いに身を投じた小十郎の青春を描く、血潮たぎる歴史巨篇。

2019:9./ 393p

978-4-12-206781-3

本体 ¥700+税



読売新聞 2019/11/03



魂の沃野<下>(中公文庫 き 17-11)

北方 謙三 著

中央公論新社

蓮如の吉崎退去、小十郎の恋、そして守護・政親の強権。戦場を覆い尽くす念仏が、かつて共に闘った者たちを、別々の明日に追い立ててゆく…。加賀一向一揆を生きた男たちの雄叫びがこだまする感動巨篇。

2019:9./ 370p

978-4-12-206782-0

本体 ¥680+税



読売新聞 2019/11/03



Iの悲劇

米澤 穂信 著

文藝春秋

市長肝いりのIターンプロジェクト。公務員たちが向き合ったのは、一癖ある「移住者」と、彼らの間で次々と発生する「謎」だった。連作短篇集。『オール讀物』掲載他に書き下ろしを加え単行本化。

2019:9./ 343p

978-4-16-391096-3

本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/11/03



20世紀ロシア文化全史～政治と芸術の十字路で～

ソロモン・ヴォルコフ、今村 朗 著

河出書房新社

20世紀ロシア文化に関する通史。トルストイ、ゴーリキー、ショスタコーヴィチ…。政治と文化のはざままで苦悩する芸術家の生き様に焦点を当てた興味深いエピソードとともに、ロシアにおける政治と芸術の緊張関係を活写する。

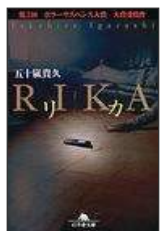
2019:5./ 371p,34p

978-4-309-24899-8

本体 ¥5,500+税



読売新聞 2019/11/03



リカ(幻冬舎文庫)

五十嵐 貴久 著

幻冬舎

平凡な会社員がネットで出会ったリカは恐るべき怪物だった。長い黒髪を振り乱し、エスカレートするリカの狂気から、もう、逃れることはできないのか?第2回ホラーサスペンス大賞受賞作。

2003:10./ 406p

978-4-344-40439-7

本体 ¥600+税



読売新聞 2019/11/03



痴漢外来～性犯罪と闘う科学～(ちくま新書 1439)

原田 隆之 著

筑摩書房

痴漢は犯罪であり、同時にその一部は「性的依存症」という病気でもある。精神科クリニックの通称「痴漢外来」で行われる、再犯率を抑える“治療”プログラムを開発した著者が、痴漢に依存する男たちの実態を明らかにする。

2019:10./ 269p,10p

978-4-480-07256-6

本体 ¥880+税



読売新聞 2019/11/03



いまこそ経済成長を取り戻せ～崩壊の瀬戸際で経済学に何ができるか～

ダンビサ・モヨ 著

白水社

政治・経済・社会を覆う「短期志向」、諸悪の根源としての「近視眼的思考」をいかに乗り越え、リベラル・デモクラシーの凋落と権威主義体制の隆盛に対するのか? 「経済成長」を軸にこれからのデモクラシーを展望する。

2019:8./ 201p,35p

978-4-560-09718-2

本体 ¥2,400+税



読売新聞 2019/11/03



少年写真家の見た明治日本～ミハエル・モーザー日本滞在記～

ミハエル・モーザー、ペーター・パンツァー 編

ミハエル・モーザー 著

勉誠出版

明治 2 年、オーストリアから日本に辿り着いた 16 歳のモーザーは、新天地にとどまり写真家として生きることを決めた。日本滞在中の日記・書簡類を紐解き、豊富な写真資料と共に彼の見聞した明治初期の世界を浮き彫りにする。

2018:5./ 23p,379p

978-4-585-22209-5

本体 ¥6,500+税



読売新聞 2019/11/03



専門知は、もういらないのか～無知礼賛と民主主義～

トム・ニコルズ、高里 ひろ 著

みすず書房

社会を蝕む反知性主義とは? 専門知が蔑ろにされてフェイクがまかり通り、好みの情報だけを取り入れてその正誤を顧みない風潮が高まっている現在。何が起きているのか、放置するとどうなるのか。アメリカの状況を考察する。

2019:7./ 284p,16p

978-4-622-08816-5

本体 ¥3,400+税



読売新聞 2019/11/03



レンズが撮らえた F・ベアトの幕末

F.ベアト、小沢 健志、高橋 則英 著

山川出版社

横浜、長崎、京都、鎌倉、江戸市中、富士登山、下関戦争…。報道写真家 F・ベアトが撮影した、幕末日本の各地の風景、さまざまな階層・職業の人びと、風俗の写真を、解説とともに収録。F・ベアトの生涯についても紹介する。

2012:11./ 221p

978-4-634-15032-4

本体 ¥1,600+税



読売新聞 2019/11/03



江戸の町<上> 巨大都市の誕生(日本人はどのように建造物をつくってきたか)

内藤 昌、穂積 和夫 著

草思社

江戸の町がどのような考えにもとづいて計画され、実際にどんな町であったかをイラストで紹介。上は、自然の地形をたくみに生かした城下町建設から、江戸城大天守を消失した明暦の大火までを描く。

2010:9./ 95p

978-4-7942-1779-0

本体 ¥1,600+税



読売新聞 2019/11/03



江戸の町<下> 新装版 巨大都市の発展(日本人はどのように建造物をつくってきたか)

内藤 昌、穂積 和夫 著
草思社

江戸の町がどのような考えにもとづいて計画され、実際にどんな町であったかをイラストで紹介。下は、17世紀後半から19世紀後半までの町の発展を中心に、町人たちの暮らしや都市施設のありさまなどを描く。

2010:9./ 95p
978-4-7942-1780-6

本体 ¥1,600+税



読売新聞 2019/11/03



海に生きた百姓たち〜海村の江戸時代〜

渡辺 尚志 著
草思社

江戸時代、海の男たちは身分的には百姓だった。当時の漁業とはどのようなものだったか？ 網元と網子の対立と協調の歴史とは？ 江戸時代の全国の漁村の姿を網羅的に紹介し、古文書等から江戸期以降の漁業の実態を追いかける。

2019:7./ 295p
978-4-7942-2404-0

本体 ¥2,200+税



読売新聞 2019/11/03



生きもの民俗誌

野本 寛一 著
昭和堂

日本人が紡いできた生きものとの多様な関係とは。大型獣から小さな昆虫に至るまで、人はどう生きものたちと向き合い、恐れ、利用し、共に生きてきたのか。暮らしの中で積み上げられた人と生きものの関係を描き出す。

2019:7./ 18p,666p,23p
978-4-8122-1823-5

本体 ¥6,500+税



読売新聞 2019/11/03



近世貨幣と経済発展

岩橋 勝 著
名古屋大学出版会

小額貨幣の流通は、庶民の生活水準の上昇を示す指標である。銭貨や藩札などの需要面に注目して日本各地の実態を分析し、東アジアにおける徳川経済の先進性を実証する。

2019:10./ 5p,448p
978-4-8158-0965-2

本体 ¥6,300+税



読売新聞 2019/11/03



生きることばへ〜余命宣告されたら何を读みますか?〜

金子 直史 著
言視舎

病を得て余命宣告された硬派のジャーナリストが、死に直面した文化人たちの格闘を読み解き、伝えた、いのちをかけた読書案内。共同通信社から地方紙各紙に配信された連載に、並行して書かれた詳細な日記等を付す。

2019:8./ 270p
978-4-86565-155-3

本体 ¥1,600+税



読売新聞 2019/11/03



幕末下級武士の絵日記〜その暮らしの風景を読む〜 新訂

大岡 敏昭 著
水曜社

幕末の下級武士・尾崎石城が書き記した「石城日記」には、さまざまな人びとの暮らしの風景が絵日記として丹念に描かれている。ほのぼのとして味わいのある彩色図をオールカラーで掲載し、石城らの暮らしを浮かび上がらせる。

2019:4./ 205p
978-4-88065-459-1

本体 ¥2,500+税



読売新聞 2019/11/03



ドーナツを穴だけ残して食べる方法(日経ビジネス人文庫 お 17-1)

大阪大学ショセキプロジェクト 編

日本経済新聞出版社

「ドーナツの穴を残して食べる」という一見矛盾した命題に、大阪大学に所属する多様な研究者が、それぞれの専門領域からアプローチ。同時に、「ドーナツの穴」をめぐる格闘する姿を通して、学問とはどういうものかを伝える。

2019:9./ 394p

978-4-532-19955-5

本体 ¥900+税



読売新聞 2019/11/03、朝日新聞 2019/11/09



女性のいない民主主義(岩波新書 新赤版 1794)

前田 健太郎 著

岩波書店

政治権力が男性に集中している日本。何が女性を政治から締め出してきたのか。客観性や中立性をうたってきた政治学は、「男性の政治学」に過ぎなかったのではない。気鋭の政治学者が、男性支配からの脱却を模索する。

2019:9./ 12p,215p,9p

978-4-00-431794-4

本体 ¥820+税



読売新聞 2019/11/03、朝日新聞 2019/11/09、日本経済新聞 2019/11/16



記憶する体

伊藤 亜紗 著

春秋社

階段のおり方、痛みとのつきあい方...。「その人のその体らしさ」はいかに育まれるのか。障害をもつ人の 11 のエピソードを通して、体に蓄積する記憶と知恵を考察する。春秋社のウェブマガジン連載をもとに単行本化。

2019:9./ 277p

978-4-393-33373-0

本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/11/03、朝日新聞 2019/11/16



ロヒンギャ難民 100 万人の衝撃

中坪 央暁 著

めこん

ロヒンギャ問題とは何か、あの日何が起こったのか、解決の道はあるのか、そして日本に何が出来るのか...。バングラデシュで実際にロヒンギャ難民支援に従事してきた元新聞記者が、この未曾有の人道危機をレポートする。

2019:8./ 525p 図版 5 枚

978-4-8396-0317-5

本体 ¥4,000+税



読売新聞 2019/11/03、朝日新聞 2019/11/16



円谷幸吉 命の手紙

松下 茂典 著

文藝春秋

オリンピックの重圧、婚約者との破談、最期の日々に付き添った謎の女性...。膨大な数の書簡、親族・関係者への取材から、日本中に衝撃を与えたマラソン銅メダリスト・円谷幸吉の自殺の真相に迫る。

2019:10./ 214p

978-4-16-391102-1

本体 ¥1,400+税



読売新聞 2019/11/03、東京・中日新聞 2019/11/10



映画はこうしてつくられる～山田宏一映画インタビュー集～

山田 宏一 著

草思社

ラウル・クタル(カメラマン)、アンナ・カーリーナ(女優)、ゴダール(監督)...。19人の映画人が「映画作りの秘密」について、真剣に、ときに親密に、機微にわたって語ったインタビュー集。

2019:9./ 537p,27p

978-4-7942-2401-9

本体 ¥3,600+税



読売新聞 2019/11/03、日本経済新聞 2019/11/09



失われた足跡(岩波文庫 32-798-1)

カルペンティエル、牛島 信明 著

岩波書店

大都会で虚しい日々を過ごす音楽家が、幻の原始楽器を探しに南米の大河を
遡行する。濃密な南米の「驚異的な現実」を遡る空間の旅は、現代から旧石器
時代へと時間を遡る旅でもあった。現代ラテンアメリカ文学の最高傑作。

2014:5./ 467p

978-4-00-327981-6

本体 ¥1,020+税



読売新聞 2019/11/10



愛と欲望の三国志(講談社現代新書 2535)

箱崎 みどり 著

講談社

「三国志」を愛してやまない東大卒女子アナが、独自に研究してきた日中戦争
下の三国志ブームの研究成果も盛り込みながら、「三国志」が日本でどう読まれ
歴史とかかわってきたのか、その真髄を全く新しい角度から探究する。

2019:8./ 254p

978-4-06-517191-2

本体 ¥860+税



読売新聞 2019/11/10



保護者のためのいじめ解決の教科書(集英社新書 0990)

阿部 泰尚 著

集英社

学校に相談するときは朝 10 時の電話。メールや手紙は NG…。わが子をいじめ
から守りたいと願う保護者に向け、6 千件のいじめ相談を受けてきた NPO 代表
が、タテマエ抜きの超実践的いじめ解決法をアドバイスする。

2019:9./ 187p

978-4-08-721090-3

本体 ¥780+税



読売新聞 2019/11/10



檜山節考 改版(新潮文庫)

深沢 七郎 著

新潮社

因習に閉ざされた棄老伝説を、近代的な小説にまで昇華させた「檜山節考」。ほ
かに「月のアペニン山」「東京のプリンスたち」「白鳥の死」の 3 編を収める。

1989:1./ 194p

978-4-10-113601-1

本体 ¥490+税



読売新聞 2019/11/10



ロリータ(新潮文庫 ナ-1-2)

ナボコフ 著

新潮社

世界文学の最高傑作と呼ばれながら、ここまで誤解多き作品も数少ない。多様
な読みを可能とする「真の古典」の、ときに爆笑を、ときに涙を誘う決定版新訳。
注釈付。

2006:11./ 623p

978-4-10-210502-3

本体 ¥950+税



読売新聞 2019/11/10



ツナグ〜想い人の心得〜

辻村 深月 著

新潮社

一生に一度だけの死者との再会を叶える使者「ツナグ」。祖母から役目を引き継
いで 7 年。歩美の元には、亡き人との面会を望む人々が、誰にも言えぬ想いを
胸に秘めて訪れる…。『yom yom』掲載を加筆し単行本化。

2019:10./ 286p

978-4-10-328323-2

本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/11/10



抽斗のなかの海

朝吹 真理子 著

中央公論新社

なにかを書くときは、果てしない海にむかって、壘を投げるような気持ちでいる。いつか交信できるかもしれないと信じている。デビューから 10 年、はじめてのエッセイ集。『読売新聞』『群像』『ミセス』ほか掲載を書籍化。

読売新聞 2019/11/10

2019:7./ 303p

978-4-12-005200-2

本体 ¥1,700+税



文豪と食～食べ物にまつわる珠玉の作品集～(中公文庫 な 52-6)

長山 靖生 編

森 孝外 著

中央公論新社

森孝外「牛鍋」、国木田独步「牛肉と馬鈴薯」、正岡子規「御所柿を食いし事」、谷崎潤一郎「美食倶楽部」…。文豪たちが描いた食べ物にまつわる珠玉の作品を通して、食道楽に収まらない偏愛的味覚と時代を探る。

読売新聞 2019/11/10

2019:10./ 265p

978-4-12-206791-2

本体 ¥820+税



「松本清張」で読む昭和史(NHK 出版新書 586)

原 武史 著

NHK出版

「社会派推理小説」というジャンルを確立した国民的作家・松本清張。代表作の数々を「鉄道」と「天皇」に注目して読み解き、昭和という時代の歴史の暗部に光をあてる。

読売新聞 2019/11/10

2019:10./ 220p

978-4-14-088586-4

本体 ¥800+税



掏摸(河出文庫 な 29-2)

中村 文則 著

河出書房新社

東京を仕事場にする天才スリ師は、闇社会に生きる「最悪」の男・木崎と再会し、仕事を依頼される。「これから 3 つの仕事をこなせ。失敗すれば、お前を殺す」その瞬間、木崎は彼にとって絶対的な運命の支配者となった。

読売新聞 2019/11/10

2013:4./ 187p

978-4-309-41210-8

本体 ¥470+税



道徳的な運～哲学論集一九七三～一九八〇～(双書現代倫理学 5)

バーナード・ウィリアムズ 著

勁草書房

規範倫理学に大きな影響を与え、徳倫理学に道を開いた 20 世紀後半の英米道徳哲学を代表する哲学者ウィリアムズの主著の全訳。倫理学の中にひとつの研究分野を開くレベルのインパクトを与えた表題作ほか全 13 本の論文を収録。

読売新聞 2019/11/10

2019:8./ 11p,350p,5p

978-4-326-19971-6

本体 ¥3,500+税



野生めぐり～列島神話の源流に触れる 12 の旅～

石倉 敏明、田附 勝 著

淡交社

オオカミ信仰の山、クジラの寄り来る海、死者と舞うシシたちの踊り…。人類学者と写真家が、日本列島に潜む無数の<他者>の記憶を辿り、豊饒な神話の源流に触れる。月刊『なごみ』連載をもとに単行本化。折り込みの写真あり。

読売新聞 2019/11/10

2015:9./ 255p

978-4-473-04045-9

本体 ¥2,000+税





ローマ教皇史(ちくま学芸文庫 ス 21-1)

鈴木 宣明 著

筑摩書房

2 千年に渡り全世界に影響を与え続けるカトリック教会の組織的・権威的中核である歴代ローマ教皇。初代ペトロス(ペテロ)に始まり、各国王室に比肩する勢力であり続けた歴代教皇に沿って、カトリック・キリスト教全史を追う。

2019:10./ 276p

978-4-480-09950-1

本体 ¥1,200+税



読売新聞 2019/11/10



赤塚不二夫のだめマンガ(ちくま文庫 あ 34-4)

赤塚 不二夫 著

筑摩書房

赤塚不二夫のパワー炸裂! 「いじわる教授」「怪物一家」「少年フライデー」「ギャグありき」など、素晴らしき「だめ」を極めたレアな 21 篇を収録する。赤塚りえ子による解説付き。

2019:9./ 329p

978-4-480-43621-4

本体 ¥780+税



読売新聞 2019/11/10



入門万葉集(ちくまプリマー新書 333)

上野 誠 著

筑摩書房

歌を使って日々の出来事や自分の思いを表現していた古代人。日本最古の歌集「万葉集」の代表的な歌や個性的な歌の書き下し文と、親しみやすい超訳を収録し、わかりやすく解説する。

2019:9./ 159p

978-4-480-68359-5

本体 ¥760+税



読売新聞 2019/11/10



11 月に去りし者(ハーパーBOOKS M・ハ 5・1)

ルー・バーニー、加賀山 卓朗 著

ハーパーコリンズ・ジャパン

1963 年 11 月、ニューオーリンズ。暗黒街で生きるギドリーは、ケネディ大統領暗殺の報に嫌な予感を覚える。数日前に依頼された仕事はこの暗殺絡みで、次に死ぬのは自分だ、と。仇敵を頼り西に向かう道中に出会ったのは…。

2019:9./ 453p

978-4-596-54122-2

本体 ¥1,093+税



読売新聞 2019/11/10



おさえておきたい「平成の経済」～「令和」経済のトレンドを読む～

中村 宏之 著

山川出版社

「バブル崩壊」から「米中衝突」「日産ゴーン元会長候補」まで、平成の経済の流れを、気鋭の経済ジャーナリストがやさしく解説。「暗号資産」「FinTech」「GAFA」といったキーワードも取り上げる。

2019:8./ 143p

978-4-634-15155-0

本体 ¥1,200+税



読売新聞 2019/11/10



スヌーピーの父チャールズ・シュルツ伝

デイヴィッド・マイケリス、古屋 美登里 著

亜紀書房

チャーリー・ブラウン、スヌーピーたちが登場する漫画「ピーナッツ」を生み出したチャールズ・シュルツ。世界中で愛される漫画を描き続け、桁違いの成功を収める一方で、常に劣等感に苛まれていた天才漫画家の生涯を描く。

2019:9./ 686p 図版 32p

978-4-7505-1616-5

本体 ¥6,000+税



読売新聞 2019/11/10



バー堂島(ハルキ文庫 よ9-4)

吉村 喜彦 著

角川春樹事務所

大阪北新地のはずれ、堂島川に面したカウンター5席の「バー堂島」。還暦近いマスター楠木正樹は元ブルース・ミュージシャン。個性豊かな連中がやってくるバー堂島で飲んで笑って、ほろっとしよう。心ほどける4つの物語。

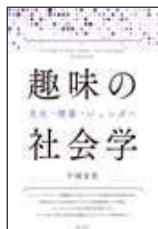
2019:10./ 203p

978-4-7584-4299-2

本体 ¥580+税



読売新聞 2019/11/10



趣味の社会学～文化・階層・ジェンダー～

片岡 栄美 著

青弓社

社会調査や計量分析を基に、現代日本における文化的オムニボア(文化的雑食性)という特性と、ジェンダーによる文化の差異を浮き彫りにする。そして、日本で文化の再生産が隠蔽されてきたメカニズムを解き明かす。

2019:9./ 377p

978-4-7872-3456-8

本体 ¥4,000+税



読売新聞 2019/11/10



失われた世界への時間旅行～冒険考古学～

堤 隆、北住 ユキ 著

新泉社

考古ボーイの13歳・加藤隼人は、ふとしたきっかけから、失われた世界へと旅する手段を知る。超ワイルドな原始生活を体験し現代に戻ってきた隼人は、遺跡発掘のチャンスを得て、ますます考古学の魅力に引き込まれ…。

2019:7./ 245p

978-4-7877-1918-8

本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/11/10



海をめぐる対話(ダイアログ)ハワイと日本～水産業からのアプローチ～(塙選書 124)

小川 真和子 著

塙書房

日本の海の民は、ハワイで出会ったさまざまな人々と、どのような対話を交わしながら生活してきたのであろうか。19世紀後半から現在にいたるまでの、ハワイの水産業と日本の海の民の歴史を、聞きとりを交えて描く。

2019:9./ 5p,234p

978-4-8273-3124-0

本体 ¥2,300+税



読売新聞 2019/11/10



ものいう仕口～白山麓で集めた民家のかけら～(LIXIL BOOKLET)

LIXIL出版

柱と梁を強固につなぎ留める仕口。福井県白山麓の古民家に施された匠の技が、解体により露わになった。残された僅かな手掛かりから、往時の仕口の組み合わせを解説する。LIXIL ギャラリーにおける同名企画展の関連書籍。

2019:9./ 71p

978-4-86480-527-8

本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/11/10



吉本隆明が語る親鸞

吉本 隆明 著

ほぼ日

親鸞の浄土とは何か? 慈悲に対する考え方、「歎異抄」に残された声、三願転入の意味…。吉本隆明が、里の人へ、町の人へ、「親鸞さん」をやさしく語る。折り込み年表も収録。講演をもとに書籍化。

2012:1./ 269p

978-4-902516-66-1

本体 ¥2,700+税



読売新聞 2019/11/10



書評キャンパス at 読書人〜書評の新聞「週刊読書人」連載 大学生が作る書評コラム〜<2018>

大学生と「週刊読書人」編集部 著
読書人

書評の専門紙『週刊読書人』連載の大学生が作る書評コラム「書評キャンパス」を書籍化。2018 年 4 月?2019 年 3 月に掲載された記事を、書評した本の著者や編集者のアンサーコメントとともに収録する。添削例なども掲載。

2019:10./ 143p

978-4-924671-42-3

本体 ¥1,000+税



読売新聞 2019/11/10



微熱の島台湾(朝日文庫)

岸本葉子 著
朝日新聞出版
読売新聞 2019/11/17

1996:11./ 260p

978-4-02-261168-0

本体 ¥612+税



私は幽霊を見ない

藤野 可織 著
KADOKAWA

心霊体験をしたいがために、廃墟訪問までしたが、ニアミスまでは体験できたものの、幽霊には会えていない…。 “日常のずれ”を描いた著者初めてのエッセイ。『Mei(冥)』『幽』連載に書き下ろしを加えて書籍化。

2019:8./ 205p

978-4-04-108188-4

本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/11/17



夜は短し歩けよ乙女(角川文庫)

森見 登美彦 著
角川書店

「黒髪の乙女」にひそかに想いを寄せる「先輩」は、京都のいたるところで彼女の姿を追ひ求めた。二人を待ち受ける珍事件の数々、そして運命の大転回とは? 山本周五郎賞受賞、本屋大賞 2 位の傑作、待望の文庫化!

2008:12./ 320p

978-4-04-387802-4

本体 ¥560+税



読売新聞 2019/11/17



君が異端だった頃

島田 雅彦 著
集英社

3 月生まれの幼年期から、めくるめく修業時代を経て、鮮烈なデビューへ。文豪たちとの愛憎劇と、妻がある身の最低男の、華麗なる遍歴と、不埒な煩悶と。島田雅彦による自伝的青春私小説。『すばる』掲載を単行本化。

2019:8./ 298p

978-4-08-771190-5

本体 ¥1,850+税



読売新聞 2019/11/17



12 人の花形伝統芸能〜覚悟と情熱〜(中公新書ラクレ 668)

中井 美穂 著
中央公論新社

伝統芸能の担い手として、守るべきものとは何か。挑むべきは何か。将来を期待される活躍中の若手たちが、芸への思いから、あらたな挑戦や葛藤、プライベートまで、現在の心境を語る。『読売新聞』連載に加筆修正し新書化。

2019:10./ 244p

978-4-12-150668-9

本体 ¥900+税



読売新聞 2019/11/17



ガン入院オロオロ日記(文春文庫 し 6-93)

東海林 さだお 著

文藝春秋

40 日間にわたる人生初のガン入院から、「オリンピック撲滅派宣言」まで。ますます冴え渡るショージ節、ここにきわまる! 新井平伊、岸本佐知子との対談、南伸坊・伊藤理佐との座談会も収録。

2019:10./ 270p

978-4-16-791373-1

本体 ¥650+税



読売新聞 2019/11/17



スノーピーク「楽しいまま!」成長を続ける経営

山井 太 著

日経BP社

おしゃれなキャンプで新市場を開拓し、アーバンアウトドアに進出。そして本格的な世界展開へ。アウトドアカンパニー「スノーピーク」社長が、その経営と「好きなことだけ」を仕事にする極意を語る。

2019:10./ 218p

978-4-296-10335-5

本体 ¥1,600+税



読売新聞 2019/11/17



初山滋〜永遠のモダニスト〜(らんぷの本)

竹迫 祐子 著

河出書房新社

大正から昭和にかけて子どもの本の世界で活躍した画家・初山滋。その流麗な線と美しく繊細な色彩は、人々を魅了し後人に限りない影響を与えた。天才の画業をたどるはじめての1冊。

2007:11./ 159p

978-4-309-72762-2

本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/11/17



栗山ノート

栗山 英樹 著

光文社

「論語」「書経」「易経」などに学び、勝敗の理由を考え抜いた先に感じ始めた、組織づくりの要諦とは。常識を覆し、感動を呼ぶ采配を振る名将が、仕事にも人生にも効く、門外不出のノートを公開する。

2019:10./ 229p

978-4-334-95117-7

本体 ¥1,300+税



読売新聞 2019/11/17



恋人がいなくてもクリスマスワクワク過ごせる人の考え方〜常識を疑うことから始めよう〜(祥伝社黄金文庫 G ひ 12-3)

ひすい こたろう、石井 しおり 著

祥伝社

あなたの常識、国が変われば、時代が変われば、非常識! あなたを小さく縛る常識は、ドンドン手放そう。「思い込み」をほどいていく先人たちの名言とエピソード 26 を紹介する。

2019:10./ 234p

978-4-396-31768-3

本体 ¥690+税



読売新聞 2019/11/17



嫌ダッと言っても愛してやるさ!(ちくま文庫 え 20-1)

遠藤 ミチロウ 著

筑摩書房

パンクロックの元祖・遠藤ミチロウの第1エッセイ集。1980年の「THE STALIN」結成から1985年の解散までを綴る。1983年の吉本隆明との対談、未収録エッセイ、歌詞、詩も収録。石井岳龍の解説付き。

2019:10./ 282p

978-4-480-43623-8

本体 ¥880+税



読売新聞 2019/11/17



祇園の祇園祭～神々の先導者宮本組の一か月～

澤木 政輝 著

平凡社

祇園祭の本義は神輿渡御を中心とした神事。花街祇園は八坂氏子の宮本として祭を支える。明治以前から続いたお茶屋に生まれ、宮本の一員として奉仕してきた著者が、知られざる神事と祭り風景を綴った貴重な記録。

2019.9./ 314p

978-4-582-83806-0

本体 ¥2,400+税



読売新聞 2019/11/17



人間

又吉 直樹 著

毎日新聞出版

38歳の誕生日に届いた、ある騒動の報せ。何者かになろうとあがいた季節の果てで、かつての若者達を待ち受けていたものとは？ 又吉直樹、初の長編小説。『毎日新聞』連載を加筆し単行本化。

2019.10./ 366p

978-4-620-10843-8

本体 ¥1,400+税



読売新聞 2019/11/17



霧中の読書

荒川 洋治 著

みすず書房

書物について書くことは、霧の中にいるようなものだ-。「風景の時間」「川上未映子の詩」「西鶴の奇談」など、荒川洋治が 2016?2019 年に発表したエッセイから 45 編を選び、書き下ろし 1 編を加えて単行本化。

2019.10./ 227p

978-4-622-08845-5

本体 ¥2,700+税



読売新聞 2019/11/17



大英自然史博物館珍鳥標本盗難事件～なぜ美しい羽は狙われたのか～

カーク・ウォレス・ジョンソン 著

化学同人

大英自然史博物館から約 300 羽の鳥の標本が消えた。世にも美しい鳥が行きついた先は、希少な羽で毛針を制作する愛好家たちの世界だった-。2009 年 6 月に起きた盗難事件の真相に迫る犯罪ルポルタージュ。

2019.8./ 381p 図版 16p

978-4-7598-2013-3

本体 ¥2,800+税



読売新聞 2019/11/17



老化と脳科学(インターナショナル新書 042)

山本 啓一 著

集英社インターナショナル

「脳」と「老化」の関係は? 『ネイチャー』『セル』など海外の一流学術誌から老化研究の最先端情報を吟味し、「脳を老けさせないため」に何が有効なのかを紹介する。運動・睡眠・食事といった日常生活へのアドバイスも掲載。

2019.8./ 172p

978-4-7976-8042-3

本体 ¥780+税



読売新聞 2019/11/17



死の海～「中河原海岸水難事故」の真相と漂泊の亡霊たち～

後藤 宏行 著

洋泉社

昭和 30 年 7 月、水泳の授業中に女子中学生 36 名が溺死する事故が起きた。生き残った女子生徒は「防空頭巾をかぶった何十人も女たちに足を引っ張られた」と証言し…。日本最恐の「幽霊事件」の真実を明らかにする。

2019.8./ 383p

978-4-8003-1672-1

本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/11/17



全著作〈森繁久彌コレクション〉～自伝～〈第1巻〉 道

森繁 久彌 著

藤原書店

名優・森繁久彌の、最後の文人としての全貌を明かす著作全集。1 は、人生 50 年の“一応の区切り”として書いた「私の履歴書-さすらいの唄」や、「森繁自伝」などを収録する。鹿島茂の解説付き。

読売新聞 2019/11/17

2019:10./ 635p

978-4-86578-244-8

本体 ¥2,800+税



かがやき

馳平 啓樹 著

水窓出版

兼業作家として創作活動が続けてきた馳平啓樹の初の作品集。自身が従事してきた仕事を反映させた、誤魔化しのない労働の日々を描く全 4 編を収録する。『文藝界』掲載に書き下ろしを加えて単行本化。

読売新聞 2019/11/17

2019:9./ 261p

978-4-909758-02-6

本体 ¥1,600+税



羅針盤は壊れても～小説集～

西村 賢太 著

講談社

中卒、日雇いバイトの貫多は 23 歳を迎えて人生の敗北を決定的に覚える。やがて、彼は私小説を書き始めるが…。生命力溢れる生活不能者の儚い希望とあえなき挫折を描いた孤狼私小説集。掌篇「一隅の夜」を収録した折込みつき。

読売新聞 2019/11/24

2018:12./ 245p

978-4-06-513804-5

本体 ¥3,000+税



世界のビジネスエリートは知っているお洒落の本質(集英社文庫 ほ 27-1)

干場 義雅 著

集英社

ビジネスマンにとって服装は絶対に欠かせない武器です。スーツや靴の選び方から職業別の着こなしまで、人気ファッションディレクターが、お金もセンスもいない世界共通のお洒落のルールを指南する。

読売新聞 2019/11/24

2019:10./ 189p

978-4-08-744040-9

本体 ¥620+税



絶滅危惧職、講談師を生きる(新潮文庫 か-88-1)

神田 松之丞 著

新潮社

彼はなぜ、滅びかけの芸を志したのか。いま最もチケットの取れない講談師・神田松之丞が、大名跡「神田伯山」を復活させるまでの軌跡を語った革命的芸道論。新章「松之丞時代の終わり」を追加して文庫化。

読売新聞 2019/11/24

2019:11./ 252p

978-4-10-101591-0

本体 ¥550+税



聖者のかけら

川添 愛 著

新潮社

1252 年、ローマ近郊の修道院に届いた謎の聖遺物が次々に奇蹟を起こした。調査を命じられた若き修道士ベネディクトが村の助祭とアッシジへ向かうと、聖者の遺体が墓所から消えていて…。史実をもとに描く、歴史ミステリ。

読売新聞 2019/11/24

2019:10./ 523p

978-4-10-352891-3

本体 ¥2,700+税





走る男～小説金栗四三～

堂場 瞬一 著

中央公論新社

五輪で3戦全敗。しかし走り続けた。日本初のオリンピック代表選手にして箱根駅伝の父、金栗四三。伝説のアスリートが3度のオリンピックで刻んだ不屈の軌跡を描く。『読売新聞』連載を加筆修正し単行本化。

読売新聞 2019/11/24

2019:10./ 292p

978-4-12-005236-1

本体 ¥1,500+税



赤い髪の女

オルハン・パムク、宮下 遼 著

早川書房

井戸掘りの親方と弟子の前にひとりの女が現れた。移動劇団の赤い髪をした女優だ。ひと目で心を奪われた弟子は、親方の言いつけを破って彼女の元へ向かった。その選択が彼の人生を幾度も揺り動かすことになるとは知らずに...

読売新聞 2019/11/24

2019:10./ 289p

978-4-15-209888-7

本体 ¥2,300+税



バレエ大図鑑

ヴィヴィアナ・デュランテ、森 菜穂美、佐々木 紀子、松藤 留美子、桑田 健、柳嶋 寛子 著

河出書房新社

ドラマティックで、感性に訴え、表情豊かな芸術“バレエ”の全体像を美しい写真や図版と共に紹介。バレエの起源からクラシック・バレエ、現代まで、70以上もの作品を詳解し、多くのダンサーや振付家、作曲家を網羅する。

読売新聞 2019/11/24

2019:11./ 359p

978-4-309-29034-8

本体 ¥13,800+税



探検家とペネロペちゃん

角幡 唯介 著

幻冬舎

私は成長し、言葉を獲得していくペネロペを見ながら、いったいこの子はどのような未知を探検しているのか知りたくて仕方がなかった...。探検家の著者がつづる、異様にかわいい娘の観察記。『小説幻冬』連載を加筆修正。

読売新聞 2019/11/24

2019:10./ 244p

978-4-344-03528-7

本体 ¥1,400+税



伸びる子どもは〇〇がすごい(日経プレミアシリーズ 412)

榎本 博明 著

日本経済新聞出版社

我慢できない、すぐ感情的になる、優先順位が決められない、自己主張だけは強い。そのルーツは子ども時代の過ごし方にあった。いま注目の「非認知能力」を取り上げ、想像力の豊かな心の折れない子を育てるためのヒントを示す。

読売新聞 2019/11/24

2019:10./ 225p

978-4-532-26412-3

本体 ¥850+税



ナチス破壊の経済～1923-1945～<上>

アダム・トゥーズ、山形 浩生、森本 正史 著

みすず書房

ナチスの経済政策は、いかに付け焼き刃に過ぎなかったか。雇用創出、アウトバーン建設など、ナチ経済政策につきまとう神話の実像を暴きつつ、戦争遂行に向けた、外貨確保を中心とした金融経済政策や動員体制の確立を詳述する。

読売新聞 2019/11/24

2019:8./ 22p,415p,62p

978-4-622-08812-7

本体 ¥4,800+税





ナチス破壊の経済～1923-1945～<下>

アダム・トウーズ、山形 浩生、森本 正史 著
みすず書房

ナチスの経済政策は、いかに付け焼き刃に過ぎなかったか。ホロコーストの経済的側面の全貌、シュペーアによる軍備の奇跡の実態など、西部戦線の開戦から敗戦まで、破壊に向かって突き進む総動員経済の終幕を描く。

2019:8./ p417?783 79p

978-4-622-08813-4

本体 ¥4,800+税



読売新聞 2019/11/24



テロリストの誕生～イスラム過激派テロの虚像と実像～

国末 憲人 著
草思社

普通の EU 市民は、いかにして凶悪なテロリストに変貌したのか。シャルリー・エブド襲撃事件、パリ同時多発テロ…。丹念な現地取材をもとに、テロリストが誕生した過程と背景を探り、彼らの意識と思考回路を明らかにする。

2019:10./ 541p

978-4-7942-2420-0

本体 ¥2,900+税



読売新聞 2019/11/24



狂花一輪～京に消えた絵師～(宝島社文庫 このミス大賞 C み-6-4)

三好 昌子 著
宝島社

京で人気の絵師・狂花が、贋作事件を機に失踪した。狂花を捜す武士・龍吾は、狂花の弟子たちを訪ね歩くうち、事件に隠された真相と、狂花の絵の中にある真実を見抜く…。

2019:10./ 292p

978-4-8002-9920-8

本体 ¥700+税



読売新聞 2019/11/24



雅楽のコスモロジー～日本宗教式楽の精神史～

小野 真龍 著
法蔵館

1400 年にわたり王権を支える儀礼式楽として続いてきた日本の雅楽。日本宗教に固有な宗教形態のダイナミズムが、どのように雅楽を生み出し、また、雅楽がそのダイナミズムのうちにどのような役割を果たしたかを概観する。

2019:10./ 246p,5p

978-4-8318-6256-3

本体 ¥2,200+税



読売新聞 2019/11/24



雨とカラス

澤西 祐典 著
書肆侃侃房

メラネシアのある小島で、なぜ男は腹を裂いて横たわっていたのか？ 第二次大戦後、世界から隔離された南洋の島で、生き残った兵士の末裔の壮絶な運命を描いた表題作ほか、奇妙で不思議な物語全 4 作を収録する。

2019:9./ 171p

978-4-86385-376-8

本体 ¥1,500+税



読売新聞 2019/11/24



パリの「赤いバラ」といわれた女～日本初の国際女優谷洋子の生涯～

遠藤 突無也 著
さくら舎

まだヨーロッパが遠かった時代に、美の家系に生まれながら日本を脱出し、ひとりぼっちでフランスへ。愛と恋とスクリーンに賭けた、日本初の国際女優・谷洋子の生涯を紐解く。

2019:8./ 332p

978-4-86581-209-1

本体 ¥2,000+税



読売新聞 2019/11/24



早慶戦全記録～伝統 2 大学の熱すぎる戦い～

堤 哲 著

啓文社書房

世界 3 大カレッジ・ゲーム、早慶戦。フレンドリー・ライバルは、野球に限らず、誰もが早慶戦にこだわりを持っていた。戦災や諸事情で散逸した記録を収集し、野球を始めとした 40 種目全ての早慶戦勝敗データを収録する。

2019:10./ 256p

978-4-89992-063-2

本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/11/24



特別ではない一日～kaze no tanbun～

我妻 俊樹 著

柏書房

小説でもエッセイでも詩でもない。現代最高の作家による書き下ろし「短文」アンソロジー。岸本佐知子「年金生活」、皆川博子「昨日の肉は今日の豆」、円城塔「店開き」、滝口悠生「半ドンでパン」など、全 19 編を収録する。

2019:10./ 224p

978-4-7601-5087-8

本体 ¥1,800+税



読売新聞 2019/11/30



論語(岩波文庫 青 202-1)

孔子、金谷 治 著

岩波書店

古代中国の大古典「四書」のひとつで、孔子とその弟子たちの言行を集録したもの。長年にわたって親しまれてきた岩波文庫版『論語』がさらに読みやすくなった改訂新版。

1999:11./ 406p

978-4-00-332021-1

本体 ¥1,010+税



日本経済新聞 2019/11/02



月下の犯罪～一九四五年三月、レヒニッツで起きたユダヤ人虐殺、そして或るハンガリー貴族の秘史～(講談社選書メチエ 707)

サーシャ・パッチャーニ、伊東 信宏 著

講談社

1945 年 3 月 24 日の晩、オーストリアの村レヒニッツで 180 人のユダヤ人が惨殺された。パーティの主催者は著者の大叔母だった。彼女の関与はあったのか？事件の真相に迫っていくノンフィクション。

2019:8./ 294p

978-4-06-516855-4

本体 ¥1,850+税



日本経済新聞 2019/11/02



マイ・ストーリー

ミシェル・オバマ、長尾 莉紗、柴田 さとみ 著

集英社

前アメリカ大統領夫人、ミシェル・オバマの回想録。優雅でユーモラス、そして率直な文章で、大統領一家の知られざる生活と、その特別な 8 年間で過ごしたホワイトハウスの内幕を鮮やかに綴る。

2019:8./ 579p 図版 16p

978-4-08-786117-4

本体 ¥2,300+税



日本経済新聞 2019/11/02



菅原道真～学者政治家の栄光と没落～(中公新書 2559)

滝川 幸司 著

中央公論新社

学問を家業とし、英邁で名高く、宇多天皇に見出され異例の出世を果たし、遣唐使派遣など重大な国政に関与しながら、藤原氏の策謀により失脚。多才がゆえに悲劇の道を辿った平安貴族・菅原道真の“真実”を描き出す。

2019:9./ 4p,264p

978-4-12-102559-3

本体 ¥860+税



日本経済新聞 2019/11/02



金田一先生のことは学入門(中公文庫 き 44-1)

金田一 秀穂 著

中央公論新社

なぜ、ゴミはカタカナで書かれるのか? なぜ、ウサギは匹ではなく羽で数えられるのか? それは、日本語がとつてもジコチューな言葉だから。金田一先生が、摩訶不思議な日本語の謎を解説する。

2016:9./ 245p

978-4-12-206286-3

本体 ¥620+税



日本経済新聞 2019/11/02



グローバル化と基軸通貨ドルへの挑戦～

小川 英治 編

東京大学出版会

国際通貨制度における基軸通貨ドルの慣性の問題、ユーロ・円の国際化によるドル体制への影響、東アジアの経済発展とドル依存からの脱却について考察する。『日経研月報』掲載をもとに単行本化。

2019:7./ 7p,247p

978-4-13-040287-3

本体 ¥4,800+税



日本経済新聞 2019/11/02



「本当の豊かさ」はブッシュマンが知っている

ジェームス・スーズマン、佐々木 知子 著

NHK出版

現代人の「労働」や「豊かさ」に関する考え方は本当に正しいのか? 何万年も前から週 15 時間の狩猟採集で「よい暮らし」を送ってきたカラハリ砂漠のブッシュマンの社会を通して、現代文明の“常識”を問い直す。

2019:10./ 398p 図版 16p

978-4-14-081796-4

本体 ¥2,600+税



日本経済新聞 2019/11/02



エネルギーの愉快な発明史

セドリック・カルル、トマ・オルティーズ、エリック・デュセル、岩澤 雅利 著

河出書房新社

地熱炉、圧縮空気トラム、太陽炉を利用した印刷機、石油を作るウェルシュ菌…。さまざまな理由から普及しなかった過去の発明を紹介しながら、新たな時代にふさわしいエネルギー利用法を考察する。

2019:10./ 253p

978-4-309-25400-5

本体 ¥2,400+税



日本経済新聞 2019/11/02



こども六法

山崎 聡一郎 著

弘文堂

法律はみんなを守るためにある。知っていれば大人に悩みを伝えて解決してもらうのに役立つよ。いじめ、虐待に悩んでいるきみへ、楯となる法律について、イラストとやわらかい言葉で解説する。

2019:8./ 201p

978-4-335-35792-3

本体 ¥1,200+税



日本経済新聞 2019/11/02



枕元の本棚(実業之日本社文庫 つ 3-1)

津村 記久子 著

実業之日本社

幼い頃から何度も眺めた絵本、学生時代に熟読した事典。生活実用書、経済学の本、スポーツ評伝、画集…。「図鑑好きが高じて図鑑を作ろうとしたことがある」と語る著者が、独自の感性でセレクトした 58 冊を紹介する。

2019:10./ 269p

978-4-408-55543-0

本体 ¥676+税



日本経済新聞 2019/11/02



日本を救う未来の農業～イスラエルに学ぶ ICT 農法～(ちくま新書 1438)

竹下 正哲 著

筑摩書房

日本の農業の最大の問題は「国際競争力のなさ」。センサーや IoT、衛星画像、クラウドシステムを使った最先端技術を駆使した農業大国イスラエルの農法を紹介し、日本の農業問題を乗り越えるための手段を提案する。

2019:9./ 249p

978-4-480-07250-4

本体 ¥840+税



日本経済新聞 2019/11/02



ライフサイクル投資術～お金に困らない人生をおくる～

イアン・エアーズ、バリー・ネイルバフ、望月 衛 著

日本経済新聞出版社

若いときにレバレッジを使えば、投資家は生涯にわたるリスクを大きく減らし、リターンを改善できる。時間軸上で賢い資産配分をすれば、引退資金を 50%も大きくすることができる。「時間の分散投資術」を具体的に解説する。

2019:9./ 323p

978-4-532-35826-6

本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2019/11/02



吉本隆明からはじまる

瀬尾 育生 著

思潮社

反復される縦深的な主題、夜の銀河鉄道、自然史的な過程…。単独で<世界>と戦う、吉本隆明の言葉をめぐって考え続けた長く濃密な時間を凝集。吉本の存在にリアルタイムで影響を刻印されてきた著者の手による評論集。

2019:7./ 372p

978-4-7837-3815-2

本体 ¥3,600+税



日本経済新聞 2019/11/02



史上最恐の人喰い虎～436 人を殺害したベンガルトラと伝説のハンター～

デイン・ハッケルブリッジ、松田 和也 著

青土社

1900 年前後、インドとネパールの国境付近で地元民を恐怖のどん底に突き落とした人喰い虎。しかし、人を襲った理由には悲劇が…。植民地主義や環境破壊等、人喰い虎を生み出した様々な問題に焦点を当てるノンフィクション。

2019:8./ 274p

978-4-7917-7208-7

本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2019/11/02



怪獣生物学入門(インターナショナル新書 043)

倉谷 滋 著

集英社インターナショナル

ゴジラ、ガメラ、「寄生獣」のパラサイト…。怪獣とはどのような生物なのか。その形態や劇中の設定、登場人物たちの台詞などを手がかりに、生物学的な視点で徹底的に考察する。

2019:10./ 254p

978-4-7976-8043-0

本体 ¥880+税



日本経済新聞 2019/11/02



キネマ旬報物語～前途は遙けく、行路難く～

掛尾 良夫 著

愛育出版

2019 年で創刊 100 年を迎えた映画雑誌『キネマ旬報』。田中三郎、田村幸彦など、100 年にわたって『キネマ旬報』を作り続けた、映画に取り憑かれた若者たちの喜びと苦闘の群像史を描く。『キネマ旬報』連載を書籍化。

2019:8./ 403p,13p

978-4-909080-95-0

本体 ¥2,400+税



日本経済新聞 2019/11/02



東京のヤミ市(講談社学術文庫 2584)

松平 誠 著

講談社

新宿、渋谷、新橋、池袋、上野…。ターミナル駅の焼け跡に人とモノが再び集まり、マーケットが生まれた。「ヤミ市」はいかに街を立ち上げたか？戦後東京の「原風景」を、生活する人々の目線で描き出す。

2019:10./ 209p

978-4-06-517115-8

本体 ¥920+税



日本経済新聞 2019/11/02、朝日新聞 2019/11/09



シリア震える橋を渡って～人々は語る～

ウェンディ・パールマン、安田 菜津紀、佐藤 慧 著

岩波書店

2011 年 3 月、シリアにも“アラブの春”が波及し、人々はアサド政権の崩壊を目指して抗議行動に立ち上がった。恐ろしい暴力に晒されても、人々はその夢をあきらめていない。想像を絶する惨状を赤裸々な証言でたどる。

2019:8./ 50p,236p

978-4-00-061357-6

本体 ¥3,200+税



日本経済新聞 2019/11/02、読売新聞 2019/11/24



小箱

小川 洋子 著

朝日新聞出版

小箱の番人、歌でしか会話ができないバリトンさん、息子を失った従姉、遺髪で堅琴の弦をつくる元美容師…。「おくりびと」たちは、孤独のさらに奥深くで冥福を祈っている…。7年ぶりの書下ろし長編小説。

2019:10./ 209p

978-4-02-251642-8

本体 ¥1,500+税



日本経済新聞 2019/11/02、毎日新聞 2019/11/03



まど・みちお詩集(岩波文庫 緑 209-1)

谷川 俊太郎 編

まど みちお 著

岩波書店

子どもの世界、自然の不思議、すべてのものや生きものがそのものとして在ること、生かされてここにいることをうたい続けたまど・みちお。エッセイを含めた全172篇を収録する。

2017:6./ 391p

978-4-00-312091-0

本体 ¥800+税



日本経済新聞 2019/11/09



社会保障再考～<地域>で支える～(岩波新書 新赤版 1796)

菊池 馨実 著

岩波書店

社会的に孤立したり、生活に困窮している人への各地での「相談支援」が、新たな可能性を育んでいる。その実践を明らかにし、法律や社会保障制度のなかに位置づけながら、その先にある新たな<地域>づくりにも注目する。

2019:9./ 11p,224p

978-4-00-431796-8

本体 ¥820+税



日本経済新聞 2019/11/09



パワースポットはここですね

高橋 秀実 著

新潮社

パワーがもらえるから「パワースポット」ではなく、「パワースポット」だからパワーがもらえる!? 千貫森、有馬療養温泉、神宮など、各地の「そこ」を訪ね感じた、日本人のココロの深層。『新潮 45』連載を加筆し書籍化。

2019:10./ 267p

978-4-10-473806-9

本体 ¥1,500+税



日本経済新聞 2019/11/09



NETFLIX コンテンツ帝国の野望〜GAFA を超える最強 IT 企業〜

ジーナ・キーティング、牧野 洋 著

新潮社

オリジナル作品でヒットを放ち続けるネットフリックス。彼らはなぜ動画配信の覇者となりえたのか？ 知られざる創業秘話から、大胆な業態変換を経て頂点に上り詰めるまでの物語を描き出す。

日本経済新聞 2019/11/09

2019:6./ 382p

978-4-10-507121-9

本体 ¥1,800+税



人口で語る世界史

ポール・モーランド、渡会 圭子 著

文藝春秋

大英帝国の出現は産業革命と農業革命による人口爆発ありきだった。一方、ナチは優生学ゆえ人口増に失敗した。気鋭の人口学者が「人口の大変革期」に当たる直近 200 年を読み解いた、画期的な歴史教養書。

日本経済新聞 2019/11/09

2019:8./ 405p

978-4-16-391085-7

本体 ¥2,200+税



上機嫌な言葉 366 日(文春文庫 た 3-58)

田辺 聖子 著

文藝春秋

人生で人間の上機嫌はいちばんすてきなもの。白黒つけない曖昧な部分にこそ宿るオトナの智慧が、硬い頭と心を解きほぐしてくれる。人生を面白く愉しむ達人・田辺聖子さんのチャーミングな言葉 366。

日本経済新聞 2019/11/09

2019:10./ 259p

978-4-16-791375-5

本体 ¥700+税



黒い豚の毛、白い豚の毛〜自選短篇集〜

閻 連科、谷川 毅 著

河出書房新社

ヒラヒラと舞う雪花、冬の枯草の暖かい匂い、鉄の規律に縛られた軍隊生活、テーブルに刺さった赤い箸の十字架…。ノーベル文学賞候補と目される作家が自ら選んだ、農村と軍隊と信仰をめぐる 9 つの短篇を収録する。

日本経済新聞 2019/11/09

2019:7./ 266p

978-4-309-20773-5

本体 ¥2,900+税



複眼で見よ(河出文庫 ほ 9-2)

本田 靖春 著

河出書房新社

権力と差別と慣例に抗い続けた孤高のジャーナリストが遺した視座とは？ 弛緩する現代日本を屈強な筆致で突き刺したジャーナリズム・メディア論、“戦後”日本人論、ルポルタージュ作品などを集成。

日本経済新聞 2019/11/09

2019:10./ 357p

978-4-309-41712-7

本体 ¥1,080+税



第五の権力〜Google には見えている未来〜

エリック・シュミット、ジャレッド・コーエン、櫻井 祐子 著

ダイヤモンド社

2025 年、世界 80 億人がオンラインで?がる。新しい力を手にする私たちは、いったいどこへ向かうのか? Google の会長らが思い描く未来を説明する。

日本経済新聞 2019/11/09

2014:2./ 7p,405p

978-4-478-01788-3

本体 ¥1,800+税





ドル化とは何か～日本で米ドルが使われる日～(ちくま新書 1443)

土田 陽介 著
筑摩書房

ドル化とは、日々の経済活動において、国内通貨のみならず米ドルなど信用力が高い外国通貨が使われる経済現象。戦後世界各国で生じた通貨危機の特徴をドル化という視点で検討し、そのうえで日本経済の現状を分析する。

2019:10./ 245p

978-4-480-07262-7

本体 ¥840+税



日本経済新聞 2019/11/09



ソーシャルメディアの生態系

オリバー・ラケット、マイケル・ケーシー、森内 薫 著
東洋経済新報社

ソーシャルメディアはあらゆるレベルにおいて、生きている有機体のように機能している。ソーシャルメディアにあてはまる生物学 7 つの法則、プラットフォームの生存競争などを解説し、デジタルアーキテクチャの未来を描く。

2019:6./ 449p,13p

978-4-492-50308-9

本体 ¥2,200+税



日本経済新聞 2019/11/09



役員報酬・指名戦略～報酬制度・選解任基準/CEO サクセッションプラン/指名・報酬委員会の設計～

村中 靖、浅井 優 著
日本経済新聞出版社

改訂版コーポレートガバナンス・コードに対応した、役員報酬・指名制度改革に関するノウハウを解説。役員報酬制度の見直し、CEO サクセッションプラン、社外取締役の選任と処遇などを最新データに基づいて体系的にまとめる。

2019:9./ 286p

978-4-532-13488-4

本体 ¥3,200+税



日本経済新聞 2019/11/09



GAFA×BATH～米中メガテックの競争戦略～

田中 道昭 著
日本経済新聞出版社

GAFA(グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン)と BATH(バaidu、アリババ、テンセント、ファーウェイ)。米中テクノロジー(メガテック)企業 8 社の戦略と未来図を、最新動向を交えて平易に解説する。

2019:4./ 319p

978-4-532-32265-6

本体 ¥1,500+税



日本経済新聞 2019/11/09



かくしてモスクワの夜はつくられ、ジャズはトルコにもたらされた～二つの帝国を渡り歩いた黒人興行師フレデリックの生涯～

ウラジーミル・アレクサンドロフ 著
白水社

厳酷な黒人差別社会に見切りをつけたミシシッピ生まれのフレデリックは、帝政時代のモスクワでアメリカン・ドリームを?むのだが…。ロシア文学の碩学が、黒人興行師・フレデリックの凄まじくも痛快で爽快な魂の遍歴を描く。

2019:9./ 323p,43p

978-4-560-09722-9

本体 ¥4,200+税



日本経済新聞 2019/11/09



アリストテレス生物学の創造<上>

アルマン・マリー・ルロワ、森 夏樹 著

みすず書房

形態から発生、代謝、分類、老化、情報の継承まで、2400 年を経て蘇る、超人的先駆者の着眼と構想。アリストテレスの生物学的仕事の全貌を鮮やかに描き出し、時代を超えて探求され続ける生物学の精髓を読み解く。

日本経済新聞 2019/11/09

2019:9./ 291p,63p

978-4-622-08834-9

本体 ¥3,800+税



アリストテレス生物学の創造<下>

アルマン・マリー・ルロワ、森 夏樹 著

みすず書房

形態から発生、代謝、分類、老化、情報の継承まで、2400 年を経て蘇る、超人的先駆者の着眼と構想。アリストテレスの生物学的仕事の全貌を鮮やかに描き出し、時代を超えて探求され続ける生物学の精髓を読み解く。

日本経済新聞 2019/11/09

2019:9./ p294?586 35p

978-4-622-08835-6

本体 ¥3,800+税



芝園団地に住んでいます～住民の半分以上が外国人になったとき何が起きるか～

大島 隆 著

明石書店

日本人と外国人が同じ場所で暮らすとき、何が起きるのか。住民にはどのような感情が生まれるのか。住民の半数以上が外国人、そのほとんどを中国人が占める埼玉県川口市の芝園団地で暮らす、ひとりの住民の記録。

日本経済新聞 2019/11/09

2019:10./ 233p

978-4-7503-4894-0

本体 ¥1,600+税



絶望の林業

田中 淳夫 著

新泉社

補助金漬け、死傷者続出、低賃金、相次ぐ盗伐、非科学的な施策…。いま、日本の林業現場で何が行われているのか。30 年近く森林と林業を取材してきた著者が、官製“成長産業”の不都合な真実を明らかにする。

日本経済新聞 2019/11/09

2019:8./ 301p

978-4-7877-1919-5

本体 ¥2,200+税



リクルートスーツの社会史

田中 里尚 著

青土社

なぜみんな同じようなリクルートスーツを着るのか。起源、歴史、変遷、文化、ジェンダーなどを網羅的に分析し、その社会的な意義を明らかにする、あたらしい服飾史にして画期的な社会史。

日本経済新聞 2019/11/09

2019:9./ 526p,6p

978-4-7917-7206-3

本体 ¥3,600+税



デフレーミング戦略～アフター・プラットフォーム時代のデジタル経済の原則～

高木 聡一郎 著

翔泳社

デジタル・トランスフォーメーションの時代には、既存のビジネスの「枠組み」の分解と「組み換え」が価値を創出する。進化する中国市場、キャッシュレス経済、ブロックチェーンなど「個人化」の動向を読み解く。

日本経済新聞 2019/11/09

2019:7./ 275p

978-4-7981-6278-2

本体 ¥2,000+税





匂いと香りの文学誌(春陽堂ライブラリー 001)

真銅 正宏 著

春陽堂書店

五感のうちでも、最も記憶と結びつきやすいと云われる嗅覚。その感覚を表現した文学作品は数多い。小説における匂いと香りの楽しみ方を、田山花袋、永井荷風、三島由紀夫、村上春樹などの作品を紹介しながら解説する。

2019:10./ 331p,3p

978-4-394-19500-9

本体 ¥2,400+税



日本経済新聞 2019/11/09、東京・中日新聞 2019/11/10



悩めるローマ法王 フランシスコの改革(中公新書ラクレ 669)

秦野 るり子 著

中央公論新社

就任当初は高い評価を得たローマ法王フランシスコ。しかし彼の改革は支持層と反対派の亀裂を招き、金銭スキャンダル等の問題拡大は混乱を巻き起こしている。カトリック教会はどこへ向かうのか。バチカン内部の真実に迫る。

2019:10./ 215p

978-4-12-150669-6

本体 ¥820+税



日本経済新聞 2019/11/09、読売新聞 2019/11/24



天才はあきらめた(朝日文庫 や 43-1)

山里 亮太 著

朝日新聞出版

「自分は天才じゃない」そう悟った日から、地獄のような努力がはじまった。日々のくやしさを燃料に爆走する、南海キャンディーズの山ちゃんこと山里亮太が、恰好悪いことも全て書いた青春記。

2018:7./ 255p

978-4-02-261936-5

本体 ¥620+税



日本経済新聞 2019/11/16



社会人大学人見知り学部卒業見込 完全版(角川文庫 わ 13-1)

若林 正恭 著

KADOKAWA

下積み期間と呼ばれる長い長いモラトリアムを過ごしたぼくは、随分世間離れした人間になっていた。芸人・若林正恭が、30歳を過ぎてから社会への参加方法を模索した経験を綴る。単行本未収録を大幅追加し文庫化。

2015:12./ 356p

978-4-04-102614-4

本体 ¥640+税



日本経済新聞 2019/11/16



「作家」と「魔女」の集まっちゃった思い出

角野 栄子 著

KADOKAWA

洗濯する母の背中へのぬくもり、ブラジルで出会った赤毛の魔女…。喜びだけでなく、悲しみも人に力を与えてくれる。国民的人気作「魔女の宅急便」を生み出した作家が、優しさとユーモアにあふれる日々を綴ったエッセイ集。

2019:9./ 261p

978-4-04-107236-3

本体 ¥1,400+税



日本経済新聞 2019/11/16



悪について誰もが知るべき10の事実

ジュリア・ショウ、服部 由美 著

講談社

小児性愛者、連続殺人犯、テロリスト…。彼らは本当に邪悪なのか？ 社会の中で邪悪視される人々に対する偏見や誤解を、実験に基づいた科学論文を参照しながら打ち砕く。

2019:9./ 310p

978-4-06-220731-7

本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2019/11/16



ビッグデータ探偵団(講談社現代新書 2539)

安宅 和人、池宮 伸次、Yahoo!ビッグデータレポートチーム 著

講談社

「頭が痛い日本人」が最も多い時刻は 17 時。音楽 CD が売れるとサバの漁獲量も増える…。ヤフーの多彩なサービスを通じて蓄積された膨大な「マルチビッグデータ」を活用し、データの面白さとそのパワーをわかりやすく伝える。

日本経済新聞 2019/11/16

2019.9./ 220p

978-4-06-517314-5

本体 ¥900+税



言い訳～関東芸人はなぜ M-1 で勝てないのか～(集英社新書 0987)

塙 宣之 著

集英社

M-1 チャンピオン未経験ながら最年少審査員に抜擢された芸人・塙宣之(ナイツ)が、漫才を徹底解剖。「ツッコミ全盛時代」などの最新事情から「ヤホー漫才」誕生秘話まで存分に語る。

日本経済新聞 2019/11/16

2019.8./ 222p

978-4-08-721087-3

本体 ¥820+税



僕の人生には事件が起きない

岩井 勇氣 著

新潮社

30 代独身、相方の陰に隠れがちな「ありふれた人生」を送るお笑い芸人の日常は実は狂気を孕んでいて…。ハライチ岩井の初エッセイ集。自筆イラストも満載。『小説新潮』『BookBang』連載に書き下ろしを加えて書籍化。

日本経済新聞 2019/11/16

2019.9./ 189p

978-4-10-352881-4

本体 ¥1,200+税



デジタル・ミニマリスト～本当に大切なことに集中する～

カル・ニューポート、池田 真紀子 著

早川書房

やらなきゃいけないことも、やりたいことも沢山あるのに SNS がとまらない...30 日間の「デジタル片づけ」で人生を変えよう! 全米に広がるシンプルで豊かな生き方「デジタル・ミニマリズム」の思考法と実践法を紹介する。

日本経済新聞 2019/11/16

2019.10./ 318p

978-4-15-209887-0

本体 ¥1,800+税



宇宙から帰ってきた日本人～日本人宇宙飛行士全 12 人の証言～

稲泉 連 著

文藝春秋

日本の社会で生まれ育ち、その風土を背景に持つ日本人宇宙飛行士は、自身の体験をどのようなものとして持ち帰ったのか。秋山豊寛から金井宣茂まで歴代 12 人の日本人宇宙飛行士に取材し、その宇宙体験を明らかにする。

日本経済新聞 2019/11/16

2019.11./ 255p

978-4-16-391107-6

本体 ¥1,650+税



勇気の赤い勲章(光文社古典新訳文庫 KA ク 2-1)

スティーヴン・クレイン 著

光文社

戦場での英雄的活躍に憧れ、北軍に志願したヘンリー。執念深く襲いかかる敵軍の包囲に遭うや、高揚は恐慌へと変わり…。南北戦争を舞台に、苛烈な戦場の光景と若き志願兵の心理を緻密に描いた戦争小説の原点。

日本経済新聞 2019/11/16

2019.10./ 281p

978-4-334-75412-9

本体 ¥880+税





ラストダンスは私に〜岩谷時子物語〜

村岡 恵理 著

光文社

越路吹雪のマネージャーであり、加山雄三やザ・ピーナッツほかの大ヒット曲を作詞した岩谷時子。関係者への詳細な取材と、貴重な資料をもとに、著者の想像も多分に加味しながら彼女の生涯を描く。

日本経済新聞 2019/11/16

2019:7./ 386p

978-4-334-95108-5

本体 ¥2,200+税



良い占領?〜第二次大戦後の日独で米兵は何をしたか〜

スーザン・L.カラザース、小滝 陽 著

人文書院

勝者による征服は、本当に平和と正義の実現を意味するのか。戦後のアメリカは、日本・ドイツに対する統治政策を「良い占領」としてきた。兵士たちが書き残した史料を用いて、性・階級・人種をめぐる軍政下の実像に迫る。

日本経済新聞 2019/11/16

2019:9./ 491p

978-4-409-51081-0

本体 ¥4,000+税



企業不祥事を防ぐ

國廣 正 著

日本経済新聞出版社

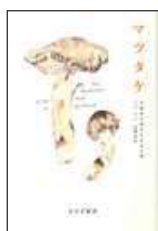
「なぜ、企業不祥事はなくならないのか」「なぜ、コンプライアンスやコーポレートガバナンスは機能しないのか」を多くの実例をあげて明らかにするとともに、豊富な実務経験から導き出した実践的対策の数々を解説する。

日本経済新聞 2019/11/16

2019:10./ 322p

978-4-532-32303-5

本体 ¥1,700+税



マツタケ〜不確定な時代を生きる術〜

アナ・チン、赤嶺 淳 著

みすず書房

マツタケの発生から採取、売買・貿易、食に供されるまでの過程を通して、資本主義の破壊的現実を背景に、人間と人間以外のものの絡まりあいと関係性の諸相を縦横に描く。人間中心主義を相対化した、人類学の書。

日本経済新聞 2019/11/16

2019:9./ 14p,441p,24p

978-4-622-08831-8

本体 ¥4,500+税



寺山修司歌集(現代歌人文庫)

寺山修司 著

国文社

日本経済新聞 2019/11/16

1983:11./ 207p

978-4-7720-0190-8

本体 ¥1,300+税



荒川洋治詩集<続編>(現代詩文庫 242)

荒川 洋治 著

思潮社

詩の形をした文学作品へ、アルチザンの未踏の軌跡-。「一時間の犬」「渡世」「心理」などからの抜粋や、「北山十八間戸」全篇等を収録。辻原登、蜂飼耳らの作品論・詩人論も掲載する。

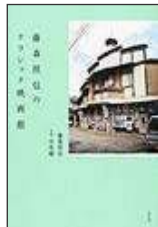
日本経済新聞 2019/11/16

2019:6./ 159p

978-4-7837-1020-2

本体 ¥1,500+税





藤森照信のクラシック映画館

藤森 照信、中馬 聡 著
青幻舎

昭和 30 年代には 7 千軒以上が存在していた映画館も、今や昔ながらの姿を留める館は 100 軒に満たない。世を風靡しながらも見過ごされてきた「映画館」の歴史を丹念に掘り起こす。全国の名物映画館の貴重な写真も多数掲載。

日本経済新聞 2019/11/16

2019:9./ 229p

978-4-86152-595-7

本体 ¥2,500+税



経済的理性の狂気～グローバル経済の行方を<資本論>で読み解く～

デヴィッド・ハーヴェイ、大屋 定晴、加賀美 太記 著

作品社

マルクスだったら、グローバル資本主義の行方をいかに分析するか? “現代のマルクス”ハーヴェイが、「資本論」体系の新たな理論的可能性を探究しつつ、グローバル資本主義の構造と狂気に迫る。日本語版解説付き。

日本経済新聞 2019/11/16

2019:9./ 320p

978-4-86182-760-0

本体 ¥2,800+税



女の子は本当にピンクが好きなのか(河出文庫 ほ 14-1)

堀越 英美 著

河出書房新社

「女の子といえばピンク」という思い込みは、どのように生まれてきたのか? <ピンク>という色の持つ社会的意味の変遷を辿る。気鋭のライターによる、現代女児カルチャーへの斬新な提言。

日本経済新聞 2019/11/16、朝日新聞 2019/11/23

2019:10./ 256p

978-4-309-41713-4

本体 ¥880+税



宮沢賢治デクノボーの叡知(新潮選書)

今福 龍太 著

新潮社

宮沢賢治の物語宇宙のまったく新しい相貌を照らし出した書。石、風、火山、動物などの実在物や、心象、未完といった構造に隠された賢治の創造原理を解き明かし、いまを生きる私たちの「倫理」を問う。

日本経済新聞 2019/11/16、東京・中日新聞 2019/11/17

2019:9./ 395p

978-4-10-603846-4

本体 ¥1,600+税



奇妙なナショナリズムの時代～排外主義に抗して～

山崎 望 編

伊藤 昌亮 著

岩波書店

近年、排外主義とレイシズムに彩られた社会運動や「ネット右翼」的な言説が台頭し、社会に浸透している。その背後にはどのようなメカニズムがあるのか。奇妙なナショナリズムに彩られた現在の日本社会を分析する。

日本経済新聞 2019/11/23

2015:9./ 6p,311p

978-4-00-061068-1

本体 ¥2,700+税



愛国の構造

将基面 貴巳 著

岩波書店

今日、世界中で「愛国=パトリオティズム」が復活を遂げているが、愛国ほど政治的に利用されやすい概念はない。欧米と日本の多様な愛国論を批判的に検討し、愛国の歴史的・哲学的な構造を解明。国家への偶像崇拜の論理を暴く。

日本経済新聞 2019/11/23

2019:7./ 7p,324p,8p

978-4-00-061354-5

本体 ¥4,700+税





声の力～歌・語り・子ども～(岩波現代文庫 文芸 312)

河合 隼雄、阪田 寛夫、谷川 俊太郎、池田 直樹 著

岩波書店

童謡、詩や絵本の読み聞かせなど、人間の肉声の持つ力とは？ 河合隼雄、阪田寛夫、谷川俊太郎、池田直樹の4人が声の魅力を縦横無尽に論じた講演や座談会、エッセイなどを収録。谷川俊太郎の論考2編を追捕し文庫化。

2019:10./ 4p,196p

978-4-00-602312-6

本体 ¥800+税



日本経済新聞 2019/11/23



オペラ入門(講談社現代新書 2547)

許 光俊 著

講談社

モーツァルト、ヴェルディ、プッチーニ…。オペラの誕生からほぼ年代順に作品や作曲家を紹介した、初心者にもマニアにもわかりやすいオペラ本。世界の主なオペラハウスも掲載する。

2019:10./ 317p

978-4-06-516874-5

本体 ¥1,000+税



日本経済新聞 2019/11/23



夜はおしまい

島本 理生 著

講談社

ミスコンで無遠慮に価値をつけられる私。お金のために愛人業をする私。夫とはセックスしたくない私…。秘密を抱える神父・金井のもとを訪れる4人の女性。逃げ道のない女という性を抉るように描く。『群像』掲載を単行本化。

2019:10./ 198p

978-4-06-517148-6

本体 ¥1,400+税



日本経済新聞 2019/11/23



ナチュラリスト～生命を愛でる人～

福岡 伸一 著

新潮社

ロスチャイルドにドリトル先生、恐竜、昆虫、化石を追う人…。福岡ハカセがNYで培った知見を活かし、自然の本質を探究する英国と日本を代表するナチュラリストたちを訪ね歩く。『考える人』掲載に大幅に加筆・修正。

2018:11./ 239p

978-4-10-332212-2

本体 ¥1,550+税



日本経済新聞 2019/11/23



老人の美学(新潮新書 835)

筒井 康隆 著

新潮社

老いは誰にとっても最初で最後の道行き。自分の居場所を見定めながら、社会の中でどう自らを律すればいいのか。孤独との向き合い方や、死を美的に迎え入れる方法等を記した、巨匠・筒井康隆によるリアルな知恵に溢れた老年論。

2019:10./ 158p

978-4-10-610835-8

本体 ¥700+税



日本経済新聞 2019/11/23



オーガ<ニ>ズム

阿部 和重 著

文藝春秋

阿部和重郎に、アメリカから瀕死の諜報部員が転がり込んだ。アメリカ大統領に迫る核テロの危機。CIA ケースオフィサーと阿部は、世界を破滅させる陰謀を阻止できるのか…。神町シリーズ最終章。『文藝界』連載を書籍化。

2019:9./ 861p

978-4-16-391097-0

本体 ¥2,400+税



日本経済新聞 2019/11/23



江戸の牢屋(河出文庫 な 5-4)

中嶋 繁雄 著

河出書房新社

江戸の牢屋敷の実態とは。囚獄・牢屋同心の仕組みと牢名主以下の囚人組織、石抱きや海老攻めといった拷問など、江戸の暗黒世界の実態を、つぶさに解き明かす。人足寄場や幕末風雲人士受難録も収録。

日本経済新聞 2019/11/23

2019:11./ 225p

978-4-309-41720-2

本体 ¥880+税



日本人は右傾化したのか～データ分析で実像を読み解く～

田辺 俊介 著

勁草書房

ネット右翼、日本礼賛番組、そして安倍政権の長期化…。日本人は本当に右寄りになったのか？ 印象論やイデオロギーを排し、大規模な社会調査と統計学で、日本人の「右傾化」の実態を検証する。

日本経済新聞 2019/11/23

2019:9./ 10p,270p,60p

978-4-326-35179-4

本体 ¥3,000+税



ナショナリズム～その神話と論理～(ちくま学芸文庫 ハ 24-2)

橋川 文三 著

筑摩書房

ナショナリズム…近代国際政治を動かす巨大な要因であったそれはどのように形成されたか。幕末・維新期におけるナション形成の思想と運動を通してナショナリズムの謎に迫る。

日本経済新聞 2019/11/23

2015:8./ 254p

978-4-480-09687-3

本体 ¥1,000+税



ナショナリズムとは何か(ちくま学芸文庫 ス 19-1)

アントニー・D.スミス、庄司 信 著

筑摩書房

人為的に創られたものと論じられる一方で、自然なものとして感受される、この矛盾に満ちた心性はいかにして生まれたのか。ナショナリズムを巡る数多の議論を整理し、イデオロギー、政治運動、文化等が絡み合うその全貌に迫る。

日本経済新聞 2019/11/23

2018:6./ 375p

978-4-480-09873-3

本体 ¥1,300+税



貿易国家のジレンマ～日本・アメリカとアジア太平洋秩序の構築～

ミレヤ・ソリース、浦田 秀次郎、岡本 次郎 著

日本経済新聞出版社

米国を代表する日本・アジア太平洋研究者が、トランプ政権の貿易政策、安倍政権下での TPP 戦略・交渉過程を検証。貿易をめぐる 21 世紀の国家が直面する政策選択の構図を明らかにし、国際貿易システムの今後を展望する。

日本経済新聞 2019/11/23

2019:10./ 421p

978-4-532-35832-7

本体 ¥3,800+税



みんなにお金を配ったら～ベーシックインカムは世界でどう議論されているか？～

アニー・ローリー、上原 裕美子 著

みすず書房

インド僻村の農民、シリコンバレーのテクノロジー投資家、ファストフードで働くシングルマザー、賛否両論の政治家から経済学者まで。多様な人々を取材し、ユニバーサル・ベーシックインカムの可能性と問題点を考察する。

日本経済新聞 2019/11/23

2019:10./ 214p,27p

978-4-622-08844-8

本体 ¥3,000+税





黄金州の殺人鬼～凶悪犯を追いつめた執念の捜査録～(亜紀書房翻訳ノンフィクション・シリーズ 3-9)

ミシェル・マクナマラ、村井 理子 著

亜紀書房

1970?80 年代に米国・カリフォルニア州を震撼させた連続殺人・強姦事件。30 年以上も未解決だった一連の事件の犯人「ゴールデン・ステート・キラー」を追ひ、独自に調査を行った女性作家による渾身の捜査録。

2019:9./ 462p 図版 16p
978-4-7505-1614-1

本体 ¥2,500+税



日本経済新聞 2019/11/23



美味しい進化～食べ物と人類はどう進化してきたか～

ジョナサン・シルバータウン、熊井 ひろ美 著

合同出版

ヒト族はいつ料理を始めたのか? 穀物栽培はヒト遺伝子をどう変えたか? 食が人類を変え、人類が食を変えた壮大な物語。料理の起源から未来の食べ物まで、美味しさにひそむ進化のドラマを著名な進化生態学者が明かす。

2019:11./ 335p
978-4-7726-9566-4

本体 ¥2,400+税



日本経済新聞 2019/11/23



クラウドファンディングストーリーズ～共感で世界を動かした 10 のケーススタディ～

出川 光 著

青幻舎

日本型クラウドファンディングの基礎を作り、西野亮廣、WHILL らを成功に導いた著者が、クラウドファンディングの本質と成功のメカニズムを初めて明かす。10 のケーススタディ、深津貴之との対談も収録。

2019:8./ 271p
978-4-86152-753-1

本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2019/11/23



現代中国 都市と農村の70年(放送大学叢書 048)

浜口 允子 著

左右社

中国の都市と農村の間にある経済格差は、どのような政策の下で生まれ、その中で人々はどのように生きたのか。現代中国を特徴づける「二元的社会」に焦点を当て、建国期から 2019 年までを人々の語りとともに振り返る。

2019:9./ 254p
978-4-86528-248-1

本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2019/11/23



房思琪の初恋の楽園

林 奕含、泉 京鹿 著

白水社

高雄の高級マンションに住む 13 歳の文学好きな美少女・房思琪。下の階に住む憧れの国語教師・李国華に作文を見せに行き強姦され、その関係から抜け出せなくなり…。台湾社会を震撼させた、実話に基づく長篇。

2019:10./ 272p
978-4-560-09700-7

本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2019/11/23、毎日新聞 2019/11/24



なぜ歴史を学ぶのか

リン・ハント、長谷川 貴彦 著

岩波書店

ポスト真実の政治と歴史修正主義が横行する時代に、歴史学に何ができるのか。トランプ政権の?、ホロコースト否認論、白人至上主義者のテロなど、具体的な事件を題材にあげながら問いに答える、アクチュアルな歴史入門。

2019:10./ 6p,120p,9p

978-4-00-024179-3

本体 ¥1,600+税



日本経済新聞 2019/11/30



聖なるズー

濱野 ちひろ 著

集英社

犬や馬をパートナーとする動物性愛者「ズー」。性暴力に苦しんだ経験を持つ著者は、ドイツで彼らと寝食をともにしながら、取材を重ね…。人間にとって愛とは何か、暴力とは何かを考察したノンフィクション。

2019:11./ 277p

978-4-08-781683-9

本体 ¥1,600+税



日本経済新聞 2019/11/30



月はすごい〜資源・開発・移住〜(中公新書 2560)

佐伯 和人 著

中央公論新社

最前線の月探査プロジェクトに携わる著者が、月の大きさや成り立ちといった基礎から、探査で確認された地下空間などの新発見までを解説。「人類は月に住めるか」「水や鉱物資源は採掘できるか」などについても詳述する。

2019:9./ 6p,220p

978-4-12-102560-9

本体 ¥820+税



日本経済新聞 2019/11/30



いい感じの石ころを拾いに(中公文庫 み 53-1)

宮田 珠己 著

中央公論新社

ただ海辺にしゃがみこんで、いい感じの石ころを探す。それ以上主張したいことは特にない。北海道から南の離島まで、“なんてことない石ころ”を拾い続けた紀行エッセイ。石ころ写真も満載。「出雲石拾い行」を加えた文庫版。

2019:10./ 301p

978-4-12-206793-6

本体 ¥780+税



日本経済新聞 2019/11/30



スターは楽し〜映画で会いたい 80 人〜(文春新書 1238)

芝山 幹郎 著

文藝春秋

当代きっての眼利きが、古今東西の映画スター80 人を、怪人、妖人、麗人など、8 つのジャンルに分類。その演技や魅力を論じつつ、生い立ちやエピソード、代表作を3 本ずつ紹介する。『文藝春秋』連載を加筆し新書化。

2019:10./ 345p,4p

978-4-16-661238-3

本体 ¥1,200+税



日本経済新聞 2019/11/30



シンコ・エスキernas街の罿

マリオ・バルガス=リョサ、田村 さと子 著

河出書房新社

テロが吹き荒れるフジモリ政権時代のペルー、リマ。乱交パーティの隠し撮りでゆすられる富裕層の男、ゴシップ誌に命をかける編集長、職を奪われ恨みを溜める老人…。腐敗した街の人間模様の背後には、国家の恐るべき罿が…。

2019:9./ 277p

978-4-309-20782-7

本体 ¥2,500+税



日本経済新聞 2019/11/30



二重国籍と日本(ちくま新書 1440)

国籍問題研究会 編

筑摩書房

多元的になる社会で、複数の国籍を持つ人は必然的に増えていく。参議院議員・蓮舫の二重国籍問題を、メディア、法制度、台湾の地位などの観点から整理。国籍問題と国籍法をめぐって日本社会が直面する問題点等も紹介する。

日本経済新聞 2019/11/30

2019:10./ 234p

978-4-480-07257-3

本体 ¥820+税



ユーザーイノベーション～消費者から始まるものづくりの未来～

小川 進 著

東洋経済新報社

メーカーが独占してきたイノベーションという行為が広く消費者に開放される「イノベーションの民主化」が、21 世紀に入ってますます進んでいる。「消費者の叡智」を中心に置いた新しいパラダイムを、豊富な事例とともに紹介。

日本経済新聞 2019/11/30

2013:9./ 11p,214p,19p

978-4-492-53335-2

本体 ¥1,800+税



ピボット・ストラテジー～未来をつくる経営軸の定め方、動かし方～

オマール・アボッシュ、ポール・ヌーンズ、ラリー・ダウンス、牧岡 宏、小林 啓倫 著

東洋経済新報社

変化し続ける企業だけが高収益を実現できる! 「潜在的収益価値」を発見する「賢明なピボット(方向転換)」の方法を、アクセンチュア、ウォルマート、ユニクロなど 100 社以上の事例で解説する。

日本経済新聞 2019/11/30

2019:10./ 28p,413p

978-4-492-53418-2

本体 ¥2,400+税



2030 中国自動車強国への戦略～世界を席巻するメガ EV メーカーの誕生～

湯 進 著

日本経済新聞出版社

中国政府の自動車産業政策の変化、CASE、電池・新興 EV メーカーの動向...。2030 年の中国モビリティ社会に備えて、日本の完成車メーカーや部品メーカーのとるべき戦略を考察する。

日本経済新聞 2019/11/30

2019:10./ 255p

978-4-532-32298-4

本体 ¥1,800+税



フリーイノベーション

エリック・フォン・ヒッペル、鷺田 祐一、古江 奈々美、北浦 さおり、グエン・フォン・バオ・チャウ 著

白桃書房

消費者は、自分の自由時間を使って無償のイノベーション、フリーイノベーションを行っている。企業によるイノベーションに加え、それを補完し、相互作用を持つフリーイノベーションの重要性と体系について解説する。

日本経済新聞 2019/11/30

2019:9./ 13p,246p,28p

978-4-561-26715-7

本体 ¥3,000+税





未完の資本主義～テクノロジーが変える経済の形と未来～(PHP 新書 1201)
ポール・クルーグマン、トーマス・フリードマン、デヴィッド・グレーバー、トーマス・セドラチェック、タイラー・コーエン、ルトガー・ブレグマン、ビクター・マイヤー＝シェンベルガー、大野 和基 著

PHP研究所

テクノロジーは資本主義をどう変えるか？我々は資本主義をどう修正するべきか？国際ジャーナリスト・大野和基が、世界の「知の巨人」7人にインタビューし、「未完」のその先の姿を考える。『Voice』等掲載に加筆。

2019.9./ 204p
978-4-569-84372-8

本体 ¥900+税



日本経済新聞 2019/11/30



あいだ哲学者は語る～どんな問いにも交通論～

篠原 資明 著

晃洋書房

「交通」といえば移動が連想されることを逆にとり、交通様態によって生じる<あいだ>のありようをもとに、身近なところから根源的なところまで、さまざま<あいだ>の捉え方を、哲学者と女子大生の対話形式で考える。

2018.11./ 3p,166p
978-4-7710-3113-5

本体 ¥1,700+税



日本経済新聞 2019/11/30



巨大銀行のカルテ～リーマンショック後の欧米金融機関にみる銀行の未来～

若奈 さとみ 著

ディスカヴァー・トゥエンティワン

金融業界をはじめとするビジネスマンに向け、リーマンショック以降、欧米金融業界で何が起こっていたのか、その全体像を提示。金融機関ごとに章立てし、各社の特徴をわかりやすく伝える。魅力溢れる CEO の人物像も紹介。

2019.9./ 421p
978-4-7993-2558-2

本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2019/11/30



テンセント～知られざる中国デジタル革命トップランナーの全貌～

呉 暁波、箭子 喜美江 著

プレジデント社

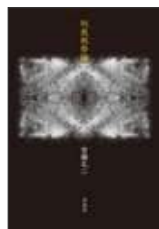
創業 20 年で中国発デジタル革命の旗手となったインターネット企業「テンセント」の歩みを、中国インターネットビジネスの歴史、ライバル企業との壮絶な戦いと絡めて描いたオフィシャル書籍。折り込み図付き。

2019.10./ 575p
978-4-8334-2337-3

本体 ¥2,300+税



日本経済新聞 2019/11/30



列島祝祭論

安藤 礼二 著

作品社

天皇制の起源に遡り、神道・道教・修験・天台・真言・後醍醐など、天皇を軸として習合・展開されてきた日本的霊性の原型を根源的に探求。極東の列島に胚胎された原初の祝祭の姿を追う。『すばる』連載を増補し書籍化。

2019.10./ 359p
978-4-86182-773-0

本体 ¥2,600+税



日本経済新聞 2019/11/30



地球外生物学～SF 映画に「進化」を読む～

倉谷 滋 著

工作舎

エイリアンは植物か？ 物体 X の常軌を逸した形態形成能とは？ 火星人が軟体動物である理由は？ SF 映画・小説などに登場する地球外生物の生態を、進化発生学者が生物学的視点から考察する。

2019:11./ 237p

978-4-87502-515-3

本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2019/11/30



いま・このポリフォニー～輪切りで読む初発の近代～

鷺見 洋一 著

ぷねうま舎

輪切りとなった時代の図柄に浮かび上がるのは、素顔の革命と、等身大の大思想家たち。そこでは何に光があたり、何が背景に退いているのか。18?19 世紀フランスの 3 つの年を選び、各時期、時代を「共時性」の方法で論じる。

2019:10./ 300p

978-4-906791-92-7

本体 ¥2,800+税



日本経済新聞 2019/11/30



まほり

高田 大介 著

KADOKAWA

社会学を専攻する大学生の勝山裕は、上州に、蛇の目紋を書いた紙がいたるところに貼られている村があると聞き、昔なじみの香織と調査を始めるが…。膨大な史料から浮かび上がる恐るべき真実とは。長篇民俗学ミステリ。

2019:10./ 492p

978-4-04-108559-2

本体 ¥2,100+税



毎日新聞 2019/11/02



NO ではない～トランプ・ショックに対処する方法～

ナオミ・クライン、幾島 幸子、荒井 雅子 著

岩波書店

トランプ大統領の登場という「ショック」をどう受けとめるか。惨事便乗型資本主義者のもくろみ、気候変動危機などについての理解をもとに、トランプ・ショックの対処法を明晰なロジックで展開し、未来への展望を描く。

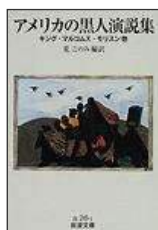
2018:7./ 10p,333p,4p

978-4-00-001825-8

本体 ¥2,600+税



毎日新聞 2019/11/03



アメリカの黒人演説集～キング・マルコムX・モリスン他～(岩波文庫 白 26-1)

荒 このみ 著

岩波書店

自由と平等はアメリカの夢と嘘でもあることを明かす黒人の歴史。公民権運動、キング、マルコム X の闘争、ハーストンやモリスンの溢れる物語をへて、今オバマの時代まで 21 人の声を聴く。

2008:11./ 404p

978-4-00-340261-0

本体 ¥1,000+税



毎日新聞 2019/11/03



行動経済学の使い方(岩波新書 新赤版 1795)

大竹 文雄 著

岩波書店

研究と応用が進み、いまや「使う」段階にきている行動経済学。その考え方をわかりやすく解説し、行動経済学を使ったナッジの作り方と、仕事、健康、公共政策における具体的な応用例を紹介する。

2019:9./ 10p,201p,23p

978-4-00-431795-1

本体 ¥820+税



毎日新聞 2019/11/03



ドラフト最下位

村瀬 秀信 著

KADOKAWA

福浦和也、田畑一也、伊藤拓郎、長谷川潤…。その年のドラフト会議で名前を最後に呼ばれた“最下位指名選手”である彼らの数奇な運命にスポットライトをあて、心の奥を描く。『野球太郎』連載に書き下ろしを加えて単行本化。

2019:9./ 322p

978-4-04-400526-9

本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2019/11/03



ピラヴド(ハヤカワ epi 文庫)

トニ・モリスン 著

早川書房

自由の意味を知り、真の自由を求め続ける女性たちの物語。アメリカ文学の最高傑作。

2009:12./ 569p

978-4-15-120057-1

本体 ¥1,100+税



毎日新聞 2019/11/03



督促 OL 指導日記～ストレスフルな職場を生き抜く術～(文春文庫 え 14-3)

榎本 まみ 著

文藝春秋

督促コールセンターの新人 OL が、数年後、オペレーターたちを束ねる監督者へ昇格。でも今度は、部下の指導に頭がイタイ!? 日本一過酷な職場をマンガとエッセイで描く。督促 OL シリーズ第3弾。

2019:10./ 227p

978-4-16-791376-2

本体 ¥600+税



毎日新聞 2019/11/03



生命式

村田 沙耶香 著

河出書房新社

人口が急激に減り、人類は滅びるのでは、という不安感が世界を支配する時代。死んだ人間を食べながら、男女が受精相手を探す「生命式」が行われ…。表題作をはじめ、著者自身がセレクトした“脳を揺さぶる”全12編を収録。

2019:10./ 269p

978-4-309-02830-9

本体 ¥1,650+税



毎日新聞 2019/11/03



マンガ哲学辞典

橋本 治 著

河出書房新社

『広告批評』に連載された幻の作品がいま甦る! 橋本治が「梓」に縛られながら生きる現代人に向け、「生きづらさ」の正体に漫画で迫る。永江朗による解説も収録。

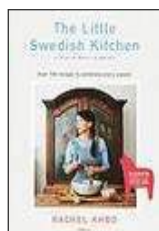
2019:9./ 167p

978-4-309-24927-8

本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2019/11/03



レイチェル・クーのスウェーデンのキッチン～Over 100 recipes to celebrate every season～

レイチェル・クー、清宮 真理 著

世界文化社

スウェーデンに移り住み、子育てをしながら北欧料理を学んできたレイチェル。現地をよく使われるスパイスやハーブ類の使い方を始め、北欧の四季の恵みを味わい尽くすレシピを紹介する。

2019:10./ 302p

978-4-418-18333-3

本体 ¥2,200+税



毎日新聞 2019/11/03



帝国～グローバル化の世界秩序とマルチチユードの可能性～

アントニオ・ネグリ、マイケル・ハート 著

以文社

グローバル化による国民国家の衰退と、生政治的な社会的現実の中から立ち現われてきた世界秩序＝「帝国」とは何か？グローバル化を包括的に再考し、それに対するオルタナティブな実践の可能性を構想する。

2003:1./ 579p

978-4-7531-0224-2

本体 ¥5,600+税



毎日新聞 2019/11/03



キャリバンと魔女～資本主義に抗する女性の身体～

シルヴィア・フェデリーチ、小田原 琳、後藤 あゆみ 著

以文社

マルクスの本源的蓄積、フーコーの身体論を、膨大な歴史資料と民族誌の分析を通して批判的に検討。資本主義の歴史を、女性に対する暴力とその抵抗の歴史として、実証的なフェミニズムの見地から読み替える壮大な意欲作。

2017:1./ 517p

978-4-7531-0337-9

本体 ¥4,600+税



毎日新聞 2019/11/03



牧原憲夫著作選集<上巻> 明治期の民権と民衆

牧原 憲夫、戸邊 秀明 編

牧原 憲夫 著

有志舎

日本近代史研究に大きな足跡を残した歴史家・牧原憲夫の著作選集。上巻は、研究の原点となる初期論考をはじめ、明治後期の土地問題や農民問題論、民権運動の分析から、新しい民衆史像を提示した 1990 年代の論考までを収録。

2019:9./ 7p,308p,14p

978-4-908672-33-0

本体 ¥2,600+税



毎日新聞 2019/11/03



牧原憲夫著作選集<下巻> 近代日本の文明化と国民化

牧原 憲夫、戸邊 秀明 編

牧原 憲夫 著

有志舎

日本近代史研究に大きな足跡を残した歴史家・牧原憲夫の著作選集。下巻は、国民国家論をめぐって展開した文明化・国民化についての論考、田中正造と山代巴を対象に歴史のなかの個人を論じた論文などを収録。

2019:9./ 7p,297p,16p

978-4-908672-34-7

本体 ¥2,600+税



毎日新聞 2019/11/03



夢の翳～塩谷定好の写真 1899-1988～

TEIKO SHIOTANI、蔦谷 典子 著

求龍堂

写真界の巨人・植田正治にとって「神様のような存在」だった幻の写真家・塩谷定好。村や海の情景、子どもたちの生命感…。通称「ヴェス単」と呼ばれた小型カメラで撮影した“世界で最も美しい古写真”を収録した作品集。

2019:10./ 239p

978-4-7630-1920-2

本体 ¥3,300+税



毎日新聞 2019/11/03、朝日新聞 2019/11/16



投げない怪物～佐々木朗希と高校野球の新時代～

柳川 悠二 著

小学館

いま、高校野球の現場で何が起きている？ 2019 年夏の岩手大会に密着した著者が、令和の怪物・佐々木朗希の登板回避の裏側に迫るとともに、強豪校の監督、選手、スカウトらに取材を重ね、激変の現場の実態を描く。

2019:10./ 253p

978-4-09-388719-9

本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2019/11/03、読売新聞 2019/11/17



?と正典

小川 哲 著

早川書房

零落した稀代のマジシャンがタイムトラベルに挑む「魔術師」、CIA 工作員が共産主義の消滅を企む表題作などを収録した、SF とエンタメの最前線たる 6 篇の作品集。『SF マガジン』他掲載に書き下ろしを加え単行本化。

2019:9./ 283p

978-4-15-209886-3

本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2019/11/03、日本経済新聞 2019/11/09



地中海の十字路=シチリアの歴史(講談社選書メチエ 703)

藤澤 房俊 著

講談社

古くはギリシア人とフェニキア人が覇権を争い、次にローマの穀倉となり、中世にはイスラーム勢力、ノルマン人が栄光の時代をもたらす。さらにフランス、スペイン、イギリスの確執。シチリア島から世界史を照射する。

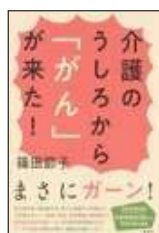
2019:6./ 261p

978-4-06-516328-3

本体 ¥1,750+税



毎日新聞 2019/11/10



介護のうしろから「がん」が来た!

篠田 節子 著

集英社

認知症の母を介護し二十余年。母が施設へ入所し、一息つけると思いきや、今度は自分が乳がんに…。ユーモア溢れる筆致で綴る、闘病&介護エッセイ。乳房再建医との対談も収録。集英社のサイト『よみタイ』掲載を加筆し書籍化。

2019:10./ 240p

978-4-08-788023-6

本体 ¥1,300+税



毎日新聞 2019/11/10



沖縄文化論～忘れられた日本～ 新版(中公叢書)

岡本 太郎 著

中央公論新社

それは、一つの恋のようなものだった。民俗の根源にひそむ悲しくも美しい魂を天才と直感と直観とで見事に捉えた名著。著者撮影による口絵写真 83 点、外間守善「新版に寄せて」を収載。1972 年刊の新版。

2002:7./ 203p 図版 64p

978-4-12-003296-7

本体 ¥1,800+税



毎日新聞 2019/11/10



純真なエレンディラと邪悪な祖母の信じがたくも痛ましい物語～ガルシア=マルケス中短篇傑作選～

ガブリエル・ガルシア=マルケス、野谷 文昭 著

河出書房新社

世界一美しい鳥かごを作った大工、中庭で見つかった年老いた天使、朽ちることのない少女の遺骸、割れた電球から流れ出す金色の光…。世界文学最高峰が創り出す多面的な魅力を凝縮した新訳アンソロジー。全 10 編を収録。

2019:8./ 260p

978-4-309-20776-6

本体 ¥2,500+税



毎日新聞 2019/11/10



奴隷の哲学者エピクテトス人生の授業～この生きづらい世の中で「よく生きる」ために～

荻野 弘之、かおり&ゆかり 著
ダイヤモンド社

「よく生きる」うえで真に大切なことは？ローマ時代のストア派を代表する奴隷出身の哲学者、エピクテトスの著作「提要」から、印象に残る言葉を取り上げ、ユニークな漫画と簡単な解説と共に紹介する。

2019:9./ 246p
978-4-478-10137-7

本体 ¥1,400+税



毎日新聞 2019/11/10



東西ベルリン動物園大戦争

ヤン・モーンハウプト、黒鳥 英俊、赤坂 桃子 著
CCCメディアハウス

冷戦時代、分断されたベルリンにあった2つの動物園では、奇妙な代理戦争がくりひろげられていた。2人の園長はゾウや希少動物の数を競い、存在感を誇示して…。知られざる冷戦の歴史に迫る。

2018:9./ 373p
978-4-484-18108-0

本体 ¥2,600+税



毎日新聞 2019/11/10



新医療経済学～医療の費用と効果を考える～

井伊 雅子、五十嵐 中、中村 良太 著
日本評論社

今後の日本財政を圧迫する最大の要因は、高齢者向けの医療と介護の経費。医療の費用対効果、エビデンスに基づく政策形成(EBPM)など、限られた資源を効率的に利用し、国民健康の増進に寄与する最新の知見を提示する。

2019:10./ 6p,222p,26p
978-4-535-55923-3

本体 ¥2,300+税



毎日新聞 2019/11/10



日本のイネ品種考～木簡からDNAまで～

佐藤 洋一郎 編
臨川書店

イネの品種の栄枯盛衰はどのように繰り返されてきたのか。それは私たちの文化・社会にいかなる影響を及ぼしたのか。考古学、自然科学、料理人それぞれの視点から、イネと米の来し方、行く末を展望する。

2019:5./ 260p
978-4-653-04414-7

本体 ¥4,500+税



毎日新聞 2019/11/10



中国古鎮をめぐり、老街をあるく

多田 麻美、張 全 著
亜紀書房

天空に浮かぶ村「窯洞」、昔日の繁栄を今に残す城壁の街、伝統劇や伝統武術を継承する人たち、変わりゆく水郷、その地方ならではの味…。独特な文化が残る中国の町や村の変わりゆく姿を丹念に描いた紀行エッセイ。

2019:9./ 271p
978-4-7505-1612-7

本体 ¥1,900+税



毎日新聞 2019/11/10



身体を引き受ける～トランスジェンダーと物質性のレトリック～

ゲイル・サラモン、藤高 和輝 著
以文社

精神分析、現象学、フェミニズム、クィア理論、トランスジェンダー・スタディーズなどの様々な学問分野を横断しながら、「身体自我」や「身体図式」といった概念を駆使して、トランスジェンダーの身体経験を理論的に考察する。

2019:9./ 4p,365p
978-4-7531-0355-3

本体 ¥3,600+税



毎日新聞 2019/11/10



社会のためのデモクラシー～ヨーロッパの社会民主主義と福祉国家～(かわさき市民アカデミー双書 6)

小川 有美 編

宮本 太郎、水島 治郎、網谷 龍介、杉田 敦 著

彩流社

国際競争、財政危機、移民等で混沌を深めるヨーロッパ諸国。ワーク・ライフ・バランス、諸問題の平等化など、かつて機能した社会民主主義政治の経験を再検討する。NPO 法人かわさき市民アカデミーでの連続講義を基に書籍化。

毎日新聞 2019/11/10

2019:9./ 6p,231p

978-4-7791-5071-5

本体 ¥1,300+税



<情弱>の社会学～ポスト・ビッグデータ時代の生の技法～

柴田 邦臣 著

青土社

高度情報化社会における「強者」「弱者」とは誰なのか。従来の情報弱者=<情弱>概念を攪乱させ、現代社会を生き抜くための技法を構想する試み。『現代思想』ほか掲載に書き下ろしを加えて書籍化。

毎日新聞 2019/11/10

2019:9./ 222p,6p

978-4-7917-7218-6

本体 ¥2,200+税



もっと、海を～想起のパサージュ～

イルマ・ラクーザ、新本 史斉 著

鳥影社

国境を越え、言語の境界を越え、移動し続けるラクーザの文学。他言語からスイス・ドイツ語の世界に移り住み、さらに諸言語をくぐり抜けて翻訳者となるまでの経験を綴った作家イルマ・ラクーザの自伝。折り込み地図付き。

毎日新聞 2019/11/10

2018:2./ 410p

978-4-86265-646-9

本体 ¥2,400+税



私

ヴォルフガング・ヒルビヒ 著

行路社

私は自分自身のスパイ。ベルリンという大年増のスカートの下、狂った時計のなかから、まったく新しい「私」の物語が生まれる。

毎日新聞 2019/11/10

2003:11./ 451p

978-4-87534-354-7

本体 ¥3,400+税



とんがりモミの木の郷～他五篇～(岩波文庫 32-344-1)

セアラ・オーン・ジュエット、河島 弘美 著

岩波書店

アメリカの女性作家ジュエットは、故郷メイン州の静かな町を舞台に、人びとのささやかな日常と美しい自然を繊細な陰影をもって描いた。「とんがりモミの木の郷」など全6篇を収録する。

毎日新聞 2019/11/10、読売新聞 2019/11/17

2019:10./ 346p,4p

978-4-00-323441-9

本体 ¥920+税



ホモ・デジタルの時代～AI と戦うための(革命の)哲学～

ダニエル・コーエン、林 昌宏 著

白水社

1968 年 5 月の学生運動を起点にして、現在までの思潮と今後の展望を、経済学、社会学、哲学、科学技術、心理学などから学際的に総括。新たな人文知のために、デジタル社会における「経済成長」の真実に迫る。

毎日新聞 2019/11/10、日本経済新聞 2019/11/16

2019:9./ 222p,17p

978-4-560-09721-2

本体 ¥2,200+税





マリー・アントワネットの衣裳部屋

内村 理奈 著

平凡社

マリー・アントワネットの生活と生涯を、豊富なカラー写真と図版に描かれた衣裳から読み解く。フランスの貴婦人たちの文化、宮殿の服飾文化を支える職人たちの技法にも触れる。貴重なアントワネットの衣裳目録全文翻訳付き。

2019:10./ 308p

978-4-582-62069-6

本体 ¥3,200+税



毎日新聞 2019/11/10、日本経済新聞 2019/11/23



文化財返還問題を考える～負の遺産を清算するために～(岩波ブックレット No.1011)

五十嵐 彰 著

岩波書店

近代以降の日本には、占領地や植民地から様々な文物が持ち込まれた。文化財返還問題をめぐる世界的な動向を紹介しながら、未だ身近に残る朝鮮半島や中国由来の「返すべきもの」について考察する。

2019:11./ 59p

978-4-00-271011-2

本体 ¥520+税



毎日新聞 2019/11/17



きけわだつみのこえ～日本戦没学生の手記～ 新版(岩波文庫)

日本戦没学生記念会 著

岩波書店

毎日新聞 2019/11/17

1995:12./ 521p,2p

978-4-00-331571-2

本体 ¥1,010+税



日蓮主義とはなんだったのか～近代日本の思想水脈～

大谷 栄一 著

講談社

テロリズムから東亜連盟、仏教社会主義まで。近代日本において日蓮の思想はなぜ多くの人びとの心をとらえたのか? 強烈な「此岸性」「在家性」「能動性」で仏国土をこの地上に打ち立てようとした者たちの軌跡を追う。

2019:8./ 668p

978-4-06-516768-7

本体 ¥3,700+税



毎日新聞 2019/11/17



ソ連のコメコン政策と冷戦～エネルギー資源問題とグローバル化～

藤澤 潤 著

東京大学出版会

エネルギー資源の供給を巡るソ連・東欧諸国の政策や交渉が、冷戦やグローバル経済の変容から影響を受けながら、どのようにして進められたのかを具体的に分析する。

2019:2./ 4p,255p,51p

978-4-13-026163-0

本体 ¥8,000+税



毎日新聞 2019/11/17



日輪兵舎～戦時下に花咲いた特異な建築～

前田 京美、山岸 常人 著

鹿島出版会

戦時下に満蒙開拓青少年義勇軍の宿舎として、大量に建設された日輪兵舎。ひと目見たら忘れられない円形の特異な形状をした戦争遺産の、建築的な実態と背景を解き明かす。

2019:8./ 333p

978-4-306-04674-0

本体 ¥2,800+税



毎日新聞 2019/11/17



静寂から音楽が生まれる

アンドラーシュ・シフ、岡田 安樹浩 著

春秋社

現代最高のピアニスト、アンドラーシュ・シフの肖像。音楽と人生について語った、マーティン・マイヤーとの対話と、「現代のピアノで弾くバッハ」「なぜ自筆譜が必要なのか」など、これまでに発表してきたエッセイを収録する。

2019:9./ 8p,413p

978-4-393-93602-3

本体 ¥3,000+税



毎日新聞 2019/11/17



フォルモサに咲く花

陳 耀昌、下村 作次郎 著

東方書店

1867 年、台湾南端の沖合で米国船ローバー号が座礁し、上陸した船長以下 13 名が原住民族に殺された「ローバー号事件」。その?末を原住民族「生番」、米国人ら「異人」など様々な視点から、台湾の風土等を盛り込んで描く。

2019:9./ 9p,421p

978-4-497-21916-9

本体 ¥2,400+税



毎日新聞 2019/11/17



ユーラシア・ダイナミズム〜大陸の胎動を読み解く地政学〜(叢書・知を究める 17)

西谷 公明 著

ミネルヴァ書房

広大無辺の地平ユーラシア。冷戦終焉後の中国とロシアの関係は、日本にとっていかなる意味を持つのか。政治、経済、地理、歴史、言語、宗教、文化などの側面から、大陸の地政学に迫る。

2019:10./ 15p,214p,8p

978-4-623-08744-0

本体 ¥2,500+税



毎日新聞 2019/11/17



学徒出陣〜戦争と青春〜(歴史文化ライブラリー)

蜷川 寿恵 著

吉川弘文館

昭和 18 年(1943 年)10 月泥しぶきをあげながら明治神宮外苑競技場を行進した 2 万人以上の学徒。彼らはいかに徴兵され、入隊後いかなる道をたどったのか。朝鮮人学徒にも目を配り実態を解明。(ソフトカバー)

1998:8./ 212p

978-4-642-05443-0

本体 ¥1,700+税



毎日新聞 2019/11/17



家のネコと野生のネコ

澤井 聖一、近藤 雄生 著

エクスナレッジ

1 万年前に野生ネコから枝分かれして、ヒトの伴侶動物となった家ネコたち。最新の遺伝子や DNA の研究からわかるその真の姿とは。絶滅が危惧される野生ネコたちの暮らしを写真とともに紹介し、野生ネコと家ネコの関係を解説。

2019:7./ 207p

978-4-7678-2650-9

本体 ¥2,800+税



毎日新聞 2019/11/17



原子力時代における哲学(犀の教室)

國分 功一郎 著

晶文社

原子力の本質的な危険性を早くから指摘していた哲学者マルティン・ハイデッガー。その洞察の秘密はどこにあったのか。知られざるテキスト「放下」を軸にした、壮大なスケールの技術と自然をめぐる連続講演の記録。

2019:9./ 317p

978-4-7949-7039-8

本体 ¥1,800+税



毎日新聞 2019/11/17



パラドックス・メン(竹書房文庫 は 9-1)

チャールズ・L.ハーネス、中村 融 著
竹書房

時は 2177 年、舞台はアメリカ帝国。時を跳びフエンシングで決闘する<盗賊>、謎の全知全能の男。時間は縮み空間は歪む。複雑怪奇にして不羈奔放の物語。SF 史上屈指の傑作との呼び声も高い長編の全訳。

2019:9./ 340p

978-4-8019-2004-0

本体 ¥900+税



毎日新聞 2019/11/17



流行歌の情景～歌詞が紡ぎだすもの～

久米 勲 著
田畑書店

あの頃の唄が聴こえる。眼前によみがえる昭和-。「別れの一本杉」「悲しい酒」など 90 曲以上の昭和の流行歌の歌詞とともに歌への思い入れを綴った、戦後歌謡私史。短歌結社誌『槻の木』連載に加筆。

2019:9./ 251p

978-4-8038-0368-6

本体 ¥1,000+税



毎日新聞 2019/11/17



大学とアジア太平洋戦争～戦争史研究と体験の歴史化～

白井厚 著
日本経済評論社

毎日新聞 2019/11/17

1996:12./ 452p

978-4-8188-0903-1

本体 ¥5,800+税



深夜高速バスに 100 回ぐらい乗ってわかったこと

スズキ ナオ 著
スタンド・ブックス

考え次第で、なんでもない日々を少しぐらいは楽しいものにすることができる。若手飲酒シーンの大本命、スズキナオの初単著となるエッセイ集。「銭湯の鏡に広告を出した話」「大人の休日、動物園飲み」など全 29 編収録。

2019:11./ 323p

978-4-909048-06-6

本体 ¥1,720+税



毎日新聞 2019/11/17



大豆と人間の歴史～満州帝国・マーガリン・熱帯雨林破壊から遺伝子組み換えまで～

クリスティン・デュボワ、和田 佐規子 著
築地書館

人類が初めて手にした戦略作物、大豆。肥料・飼料、食品・産業素材などとして広く使われ、世界中で膨大な量が栽培・取引されている。大豆が人間社会に投げかける光と影、グローバル・ビジネスと社会環境被害の実態を描き出す。

2019:10./ 376p

978-4-8067-1589-4

本体 ¥3,400+税



毎日新聞 2019/11/17、日本経済新聞 2019/11/23



女の俳句

神野 紗希 著
ふらんす堂

俳人・神野紗希が、女を詠んだ古今東西の俳句を、「少女」「恋愛」「乳房」「化粧」などのテーマごとに取り上げ、一句一句と対話しながら自身の解釈や考えを述べる。『ふらんす堂通信』連載を加筆修正。

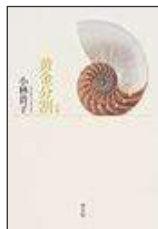
2019:10./ 301p

978-4-7814-1228-3

本体 ¥2,000+税



毎日新聞 2019/11/18



黄金分割～句集～

小林 貴子 著

朔出版

鼓動なき水の面や薄紅梅 海もまた瀬を速むなり星祭 待春や深海魚たち楽しさう 十二月わが泥舟の沈みゆく 2008 年から 2014 年までの 7 年間の作品を収録した第 4 句集。

2019:10./ 205p

978-4-908978-29-6

本体 ¥2,000+税



毎日新聞 2019/11/18



書物について～その形而下学と形而上学～

清水 徹 著

岩波書店

本というものは本当にただものではない。この物体を人類史の彼方に遡り、近代の書物の多様な現場を経めぐり、現代のメディアとして論じる。興味深い逸話を満載、書物を媒介とした西欧文学史をなす、書物をめぐる究極の一冊!

2001:7./ 382p

978-4-00-023359-0

本体 ¥4,600+税



毎日新聞 2019/11/24



俳諧の詩学

川本 皓嗣 著

岩波書店

素朴な「意味」への問いは、「世界最短の詩」である俳句・俳諧を広く一般詩学へと解放するきっかけとなる。季語や切字などの約束事を当たり前のこととせず、その根底から改めてこの「短詩型」を問い直す俳諧論。

2019:9./ 20p,297p,9p

978-4-00-024489-3

本体 ¥3,300+税



毎日新聞 2019/11/24



荒地(岩波文庫)

T.S.エリオット 著

岩波書店

「四月は最も残酷な月…」と鮮烈な言葉で始まる『荒地』は、20 世紀モダニズム詩の金字塔である。本書には、『プルーフロックその他の観察』から『荒地』までの T・S・エリオット(1888-1965)の主要な詩を収録。

2010:8./ 323p

978-4-00-322582-0

本体 ¥840+税



毎日新聞 2019/11/24



ぼくたちはこうして学者になった～脳・チンパンジー・人間～(岩波現代文庫 社会 314)

松本 元、松沢 哲郎 著

岩波書店

脳型コンピュータの実現をめざす脳科学者と、進化の隣人チンパンジーが世界をどう認識しているかを探る霊長類学者の対談。新たな学問を切り拓いてきた二人が、どのような生い立ちや出会いを経て、何を学んできたかを語り合う。

2019:10./ 4p,261p

978-4-00-603314-9

本体 ¥1,080+税



毎日新聞 2019/11/24



パンとペン～社会主義者・堺利彦と「売文社」の闘い～(講談社文庫 く71-1)

黒岩 比佐子 著

講談社

夏目漱石から松本清張まで多くの作家との意外な接点を持ち、日本初の編集プロダクションかつ翻訳会社を率いた堺利彦。「弾圧の時代」をユーモアと筆の力で生き抜いた社会主義運動家に、文学から光をあてる。

2013:10./ 634p

978-4-06-277661-5

本体 ¥1,010+税



毎日新聞 2019/11/24



鍋木清方原寸美術館～100% KIYOKATA!～(100% ART MUSEUM)

鍋木 清方 著
小学館

44年ぶりに再発見された幻の名画「築地明石町」ほか、東京国立近代美術館が所蔵する鍋木清方の作品23点を原寸で掲載。これまで所蔵者や学芸員にしか許されていなかった、至近距離での観察を疑似体験できる画集。

毎日新聞 2019/11/24

2019:10./ 142p

978-4-09-682314-9

本体 ¥2,400+税



ようかん

虎屋文庫 著
新潮社

日本人が長らく愛してきた和菓子の代表「ようかん」。日本人にとってようかんとはどんな食べ物なのか。ようかんの歴史から色や形の美しさ、材料、アレンジメニューまで、多角的にとらえる。虎屋の製造現場も紹介。

毎日新聞 2019/11/24

2019:10./ 159p

978-4-10-352951-4

本体 ¥2,200+税



猫脳がわかる!(文春新書 1232)

今泉 忠明 著
文藝春秋

約200もの単語が覚えられる? 暗闇で人の6倍もよく見える理由は? 身近な動物でありながら謎も多い猫の生態を解く鍵は、猫脳にあり! 最新の解剖学、動物行動学などの研究成果を踏まえ、猫の魅力に迫る。

毎日新聞 2019/11/24

2019:9./ 203p

978-4-16-661232-1

本体 ¥800+税



電子本をバカにするなかれ～書物史の第三の革命～

津野 海太郎 著
国書刊行会

本の電子化への動きを書物史・文明史の流れのなかでとらえなおせば、電子本と紙の本が共存する新しい時代が見えてくる。電子本黎明期より本と出版の未来を考察してきた第一人者による明快な読書論。萩野正昭との対談も収録。

毎日新聞 2019/11/24

2010:11./ 287p

978-4-336-05326-8

本体 ¥1,800+税



中国「草食セレブ」はなぜ日本が好きか(日経プレミアシリーズ 406)

袁 静 著
日本経済新聞出版社

訪日中国人の過半数は20代?30代。「若者」を知らずしてインバウンドは語れない! 健康にお金を惜しまない、文化的なものが好き、一人飲み・一人グルメ…。中国の若者の意外な消費意識について、中国人実業家が分析する。

毎日新聞 2019/11/24

2019:9./ 249p

978-4-532-26406-2

本体 ¥850+税



「差別はいけない」とみんないうけれど。

綿野 恵太 著
平凡社

セクハラや差別が跡を絶たないのは、「差別はいけない」と叫ぶだけでは解決できない問題がその背景にあるからだ。反発・反感を手がかりにして、差別が生じる政治的・経済的・社会的な背景に迫る。

毎日新聞 2019/11/24

2019:7./ 316p

978-4-582-82489-6

本体 ¥2,200+税





黒い同盟 米国、サウジアラビア、イスラエル～「反イラン枢軸」の暗部～(平凡社新書 921)

宮田 律 著

平凡社

サウジアラビアの他国への干渉や国内における人権問題を米国は非難しない。また、パレスチナ問題においても、サウジアラビアは米国に異を唱えない。「反イラン」を軸に形成される“黒い同盟”の特殊な関係性の内実を読み解く。

2019:9./ 266p

978-4-582-85921-8

本体 ¥900+税



毎日新聞 2019/11/24



憲法九条は世界遺産

古賀 誠 著

かもがわ出版

憲法九条の改正だけは許さない。それは自分の母も含め、無数の戦争未亡人をつくった歴史を二度と繰り返さないためだ。自由民主党元幹事長・古賀誠が、憲法九条を、自身の生まれ、育ちとともに語る。

2019:9./ 95p

978-4-7803-1045-0

本体 ¥1,000+税



毎日新聞 2019/11/24



となりの難民～日本が認めない 99%の人たちの SOS～

織田 朝日 著

旬報社

自国で起きた戦争や迫害、差別からのがれるため、他国へ避難する「難民」たち。彼らはどんな思いで日本へ来て、どんな境遇で、どんな生活をしているのか。外国人支援団体の主宰者が日本にいる難民の姿を紹介する。

2019:11./ 195p

978-4-8451-1613-3

本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2019/11/24



日本国民のための愛国の教科書

将基面 貴巳 著

百万年書房

愛国心を持つことは自然なことか。国のために尽くすことは正しいことか。愛国心の落とし穴とは何か。「愛国」という問題をめぐって研究してきた内容から重要な論点を選び、個人的体験も交えて平易に論じる。

2019:7./ 199p

978-4-9910221-9-7

本体 ¥1,680+税



毎日新聞 2019/11/24



青卵(ちくま文庫 ひ 19-4)

東 直子 著

筑摩書房

柔らかな空気をまといながら、時にハッとさせられる表現や心の奥を覗くような影を含んだ歌など、独自の感覚に充ちた歌人・東直子の作品 491 首を収めた第 2 歌集。花山周子の評論、穂村弘との対談も収録する。

2019:11./ 281p

978-4-480-43625-2

本体 ¥780+税



毎日新聞 2019/11/25